

Agera® L2 および EasyMatch® Essentials L2



ハンター・アソシエーツ・ラボラトリー

11491 Sunset Hills Road Reston, Virginia 20190 USA

www.hunterlab.com

A60-1021-826 バージョン 1.0

EasyMatch Essentials L2 2026.1 以降用



はじめに

著作権および商標

このドキュメントには、Hunter Associates Laboratory, Inc. の専有情報が含まれています。Hunter Associates Laboratory, Inc. の書面による明示的な同意がない限り、その全部または一部の複製を禁じます。

Agera および EasyMatch は、Hunter Associates Laboratory, Inc. の登録商標です。Windows は、米国およびその他の国における Microsoft Corporation の登録商標です。

安全に関する注意事項



注意：HunterLab が指定した方法以外で本機器を使用すると、その安全性および保護機能が損なわれるおそれがあります。本機器は屋内専用であり、湿気の多い場所での使用には適していません。



Agera L2 を使用する際の安全のため、本ユーザーマニュアルに記載されている以下の種類の注意事項に注意してください。

- 装置の操作中は常に遵守すべき一般的な安全上の指示。
- 注意書きが記載されている箇所において、マニュアルで説明されている機器の操作の種類に不可欠な、具体的な安全上の指示。
- 製造元が指定していない方法で本機器を使用すると、機器が提供する保護機能が損なわれる可能性があります。
- 液体をこぼした場合、感電の危険があります。また、揮発性または可燃性の液体をこぼした場合、火災の危険があります。液体試料を測定する際は注意してください。

法的免責事項：機器による視覚評価

HunterLab Agera L2 比色分光光度計は、色および外観の精密測定用に設計されています。この装置は、絶対的および相対的な数値で色および関連データを測定します。

機器による測定値には固有の不確実性があり、試料の状態にはばらつきがあり、また人間の色覚には不一致が生じる可能性があるため、HunterLab はデータの正確性、完全性、有効性、および適時性を保証することはできません。ユーザーは、機器によるデータを綿密な目視評価によって確認することを強くお勧めします。

責任の免責：データ、メタデータおよび情報の利用

Hunter Associates Laboratory, Inc.（その従業員、代理人、および譲受人を含む）は、当社の色測定装置から得られたデータ、または本資料に含まれる情報の利用に起因する結果、あるいは当該情報のコンテンツ（誤りや脱落、事実上または科学的な仮定・研究・結論の正確性または妥当性、陳述の誹謗中傷的性質、著作権その他の知的財産権の帰属、および他者の財産権、プライバシー権、または人格権の侵害を含みますが、これらに限定されません。ハンター・アソシエイツ・ラボラトリー社は、当該データおよび／または情報の使用、参照、または依存に起因するいかなる種類の損害についても責任を負わず、すべての責任を明示的に否認します。ハンター・アソシエイツ・ラボラトリー社は、当該データおよび／または情報について、商品性または特定の用途・目的に対する適合性に関する明示的または黙示的な保証を含むがこれらに限定されない、いかなる保証も行いません。

目次

序文	3
著作権および商標	3
安全に関する注意事項	3
法的免責事項：機器による視覚的評価	3
免責事項：データ、メタデータおよび情報の利用	4
目次	5
機器の設定と概要	9
HunterLab Agera L2 および EasyMatch Essentials L2 とは	9
標準付属品	9
Agera L2の設置場所の選定	9
サンプル	10
スタッフ	10
安全	10
Agera L2の清掃	11
箱から取り出す	11
電源ジャック	11
ユーザー向け機能	11
電源入力および背面I/O機能	12
初期設定の要点：L2セットアップおよび測定ガイド	15
計測器の電源投入	15
初回セットアップと入門チュートリアル	15
ワークスペースのデフォルト設定	15
標準化	16
サンプルの読み取り	18
EZ VIEWの編集	19
ワークスペースとジョブの変更または追加	19
ジョブのエクスポート	20

Essentials L2 画面の操作	23
ステータスバー – ジョブ、アクションボタン、およびワークスペース	23
ツールバー – システムメニュー、ビュー、およびHunterLabアイコン	25
ワークスペースの編集	29
ワークスペース検索ラベルの印刷.....	29
ワークスペースの編集	30
標準化モード	31
測定オプション	37
エクスポートオプション	37
ビュー	41
EZ VIEW.....	41
カラーデータ表.....	42
スペクトルデータ表	43
スペクトルプロット	44
カラープロット	44
機器設定	47
一般.....	47
表示と明るさ	49
ネットワーク設定	49
自動検索（標準）	52
診断.....	55
セキュリティ設定	57
UVキャリブレーション.....	57
Agera L2 での Essentials L2 の更新方法	59
手順：	59
仕様	61
表5：仕様.....	61
動作条件	61
物理的特性.....	61

照明および観察条件	62
機器の性能	62
測定	62
標準付属品	63
規格適合性	63
規制に関する通知	64
Agera L2 メンテナンスおよび安全.....	65
Agera L2のメンテナンス	65
認定計器、ブラックガラス、および診断チェック基準の清掃	65
サポートが必要な場合	67
図表一覧	69
表	71
索引	73

装置の設定と概要

HunterLab Agera L2 および EasyMatch Essentials L2 とは

Agera L2は、多目的0/45°色・外観測定システムであり、ポートアップまたはポートフォワード構成のいずれにおいても、400～700 nmの反射色、ASTM 60度光沢、およびサンプル画像撮影機能を提供します。UV制御LED照明により、標準サンプルおよび蛍光サンプルにおいて優れた色精度と再現性を実現します。ダークパフォーマンスモードは、濃黒色、複雑な素材、低反射率の材料に対して高精度な測定値を提供します。内蔵カメラにより、測定準備中に画面上で45°/0°の試料画像を確認でき、試料データと共に参照できるよう画像をキャプチャして保存します。すべての測定結果は、組み込みの品質管理ソフトウェア「EasyMatch Essentials L2」を介して、7インチの高解像度タッチスクリーンインターフェースに同時に表示されます。このソフトウェアには、産業用途で求められるほとんどのカラースケール、指標、および光源／観測者組み合わせが含まれています。イーサネット、ワイヤレス、USB接続により、測定結果の保存、ネットワークプリンターへの印刷、LIMSやSPCシステムへのデータストリーミングが可能です。また、外部モニター、キーボード、マウス用のHDMIポートおよび追加のUSBポートも備えています。

標準付属品

- 校正ボックス（認定機器標準（白）、黒ガラス標準、診断チェック標準（緑）を含む）
- 視野ポートプレート - 3枚セット
- トレーサビリティ証明書
- 電源
- スタイラス、レンズワイプ、クリーニングクロス
- Agera L2 クイックスタートガイド
- USBフラッシュドライブ

Agera L2の設置場所の選定

実験室環境

HunterLab Agera L2 分光光度計は、高精度な実験室用機器です。正確かつ精密な測定を確保するためには、実験室レベルの環境が求められ、その環境を維持する必要があります。これには、温度、湿度、気圧、清浄度などの環境要因や条件が含まれます。精密機器の汚染を防ぐため、環境には浮遊粉塵や粒子状物質、エアロゾルなどの汚染物質が存在しないようにしてください。

設置場所の要件

装置のサイズと重量、および電氣的要件、温度・湿度要件は、以下の表に示されています。

表 1. 設置場所の要件

高さ	28cm; 11.0インチ
幅	21.6cm; 8.75インチ
奥行	31cm; 12.25インチ
重量	7.7 kg (17 lb)
電源	110～240V AC; 47～63Hz 単相
温度	10～40°C (50～104°F)
湿度	10% ～ 90% (結露なし)

- 装置の両側に 20cm (8 インチ) の障害物のないスペースを確保してください。
- 本器は、直射日光を避け、窓から離して設置してください。
- Agera L2 の周囲の空気は、アルカリや酸の蒸気、有機溶剤、ほこりが含まれていない状態にしてください。
- Agera L2 を強い電界の中で使用しないでください。
- 強い振動や衝撃は避けてください。
- Agera L2 の近くに発熱源がないことを確認してください。
- カバーは取り外さないでください。修理は、HunterLab のサービス担当者が実施してください。

注：本書に記載されているこれらの条件および手順に従わない場合、装置の性能に悪影響を及ぼすおそれがあります。

サンプル

装置内部への汚染を最小限に抑えるため、サンプルの取り扱いおよび準備に関する手順を遵守してください。

担当者

適切な服装の着用、クリーンルームのような手順の遵守、汚染を防ぐための行動への配慮など、清潔な作業慣行について実験室の担当者に指導を行ってください。

安全

- 機器の LED を直視しないでください。目に損傷を与える恐れがあります。
- 本機器を水に浸さないでください。
- 本機器には「ユーザーが修理可能な部品」は含まれていないため、分解しないでください。
- 機器を分解して、光学部品の清掃を試みしないでください。
- 本ユーザーマニュアルに記載されている手順、または HunterLab テクニカルサポートの指示に従う場合を除き、機器を開けたり、カバーを取り外したりしないでください。
本ユーザーマニュアルに記載されている手順、または HunterLab テクニカルサポートの指示に従わない限り、本機器を開けたり、カバーを取り外したりしないでください。

詳細については、「仕様」を参照してください。

Agera L2 の清掃

Agera L2 の外装は、柔らかい布で拭いてください。装置に液体を直接吹きかけないでください。光学面の劣化を防ぐよう注意してください。詳細については、「メンテナンス」を参照してください。

注：本書に記載されている通り、これらの条件および手順に従わない場合、装置の性能に悪影響を及ぼす可能性があります

箱の開封

Agera L2 を作業台に置いてください。万が一、HunterLab への返品が必要になった場合に備え、梱包材は保管しておいてください。

ご注文内容の確認

ご注文内容をご確認ください。ご注文内容とハンターラボからの出荷書類を照合してください。不一致がある場合は、ハンターラボ カスタマーエクスペリエンスチーム (support@hunterlab.com) までご連絡ください。

電源ジャック

本機器には 24 VDC (3.75A) の電源アダプターが付属しています。電源アダプターは、図に示すように、イーサネットポートおよび USB ポートと共に、機器の背面に接続します。

ポートの向き

Essentials L2 の画面は、Agera L2 のポートアップ設定がデフォルトとなっています。画面の向きを変更する必要がある場合は、**[SYSTEM MENU] > [INSTRUMENT SETTINGS] > [DISPLAY & BRIGHTNESS]** に移動し、**[CHANGE SCREEN ORIENTATION]** にチェックを入れてください。

キーボードとマウス

Agera L2 は、以下のキーボードおよびマウスに対応しています：

- L02-1017-434 ワイヤレスキーボードおよびマウスキット。

このアクセサリを使用するには、電源を切ってください。マイクロUSBアダプターを機器に接続し、キーボード用のナノレシーバーをUSBポートに差し込みます。キーボード/マウスに電池を入れ、電源を入れ直してください。

ユーザー向け機能

タッチスクリーンディスプレイ

Agera L2 は、7 インチの高解像度タッチスクリーンディスプレイを搭載しており、これが装置を操作するための主要なインターフェースとなります。この画面から EasyMatch Essentials L2 ソフトウェアに直感的にアクセスでき、ユーザーはサンプルデータの確認、ワークフローの管理、装置設定の調整を行うことができます。

前面および背面の USB コネクタ

Agera L2 には 3 つの USB コネクタがあり、前面に 1 つ、背面パネルに 2 つあります。前面のコネクタは通常、プリンターやキーボードを Agera

L2にプリンターやキーボードを接続するために使用されます。複数のデバイスを同時に接続したい場合は、装置の前面にUSBハブを接続することができます。どのUSBポートも、ジョブやワークスペースのエクスポート、装置のバックアップ、ソフトウェアの更新に使用可能です。

本機器は、**L02-1017-434 ワイヤレスキーボードおよびマウスキット**に対応しています。

物理アクションボタン

サンプルポートの右側に位置する丸い物理アクションボタンには、稲妻のアイコンが表示されています。このボタンは、Essentials L2ユーザーインターフェースの緑色のアクションボタンの機能を再現しています。これにより、標準化、測定の開始、ワークフローの次のステップへの移行などの主要な操作を実行できます。

電源入力および背面I/O機能

本装置には、24 VDC (3.75A) の電源アダプタが付属しています。電源アダプタを、Agera L2の背面下部にある電源入力端子に接続してください。

背面I/Oボードには、以下のコンポーネントが含まれています：

- **電源入力：**電源アダプターを電源入力端子に接続してください。
- **電源スイッチ：**ロッカースイッチを使用して、装置の電源をオンまたはオフにします。
- **HDMI：**モニターへの接続、またはビデオ出力用です。
- **イーサネットポート：**PC上のHunterLab Essentials L2やその他のネットワーク接続されたプラントシステムと接続し、データ出力を行うためにAgera L2をネットワークに接続します。
- **USBポート：**プリンター、キーボード、マウスへの接続用。背面パネル＝2つ、前面パネル＝1つ。
- **サービスポート：**HunterLab サービス部門が使用します。
- **フットスイッチポート：**フットスイッチを接続して、測定を簡単に開始できます。
- **アクセサリコネクタ：**Agera L2 サンプル回転クランプなどのアクセサリに対応しています。
- **接地ラグ**

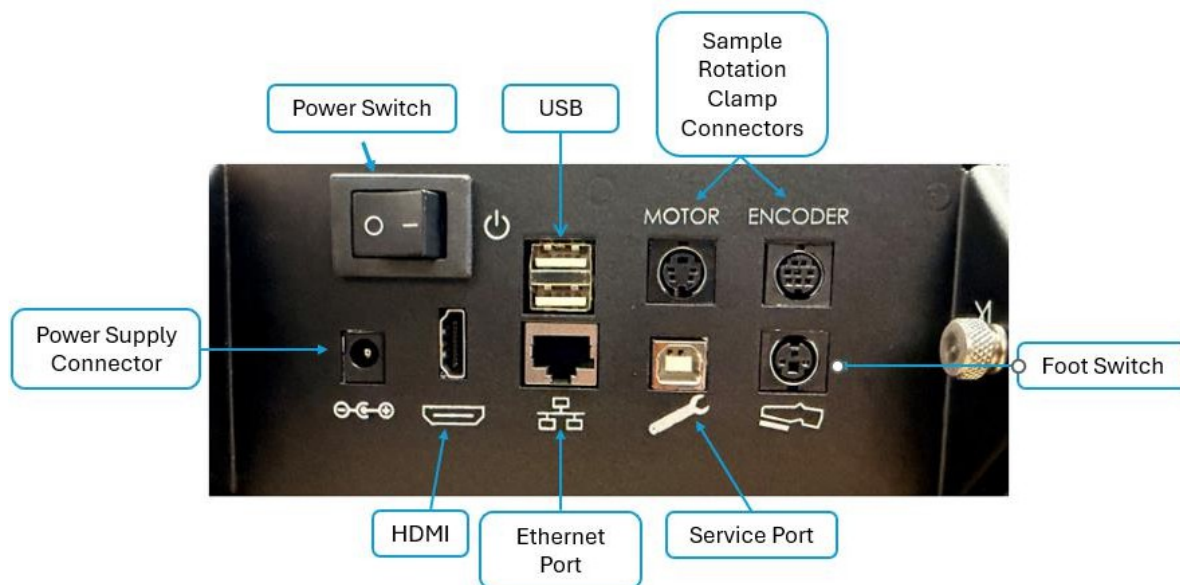


図1. Agera L2の背面にあるポート

注意

注：本機器に付属の電源コード、またはHunterLabから入手した交換用電源コードのみを使用してください。接続する前に、電源コードの状態が良好であることを必ず確認してください。

Initial Essentials L2 セットアップおよび測定ガイド

装置の電源投入

本機器を開梱してセットアップした後、本機器ベース背面の電源スイッチを使用して電源を入れてください。

初回セットアップと入門チュートリアル

Essentials L2 ソフトウェアを初めて起動すると、「初回セットアップ」ダイアログが表示されます。言語、地域、日付、時刻を設定し、「完了」をタップして次に進みます。

次に、「**WELCOME WIZARD**」が、装置およびソフトウェアの機能概要をご案内します。ウィザードを終了するには、右上隅の「X」をタップしてください。右上隅の HunterLab アイコンをタップすれば、いつでもウィザードを再起動できます。

デフォルトのワークスペース設定

ウィザード終了後、メインの測定画面「EZ View [D65/10]」が表示されます。Essentials L2は、「CIELAB [D65/10]」をデフォルトのワークスペースとして読み込みます
 が次のように設定されて読み込まれます：

表2. ワークスペース設定

カラスケール：	CIE L*a*b*
指標	なし
差異	なし
光源／観察者：	D65/10° (CIE 1964 観測者)
照明プロファイル	D65光源モード
ポート：	28.57mm (1.125") 実径25.0 mm (1")
表示	EZビュー
標準タイプ	アドホック／ワーキング

注：Essentials L2 ソフトウェアには、「CIELAB [D65/10]」と「HunterLab [C/2]」の2つのデフォルトワークスペースが含まれています。これらのワークスペースは直接変更することはできません
 直接変更することはできません。ただし、これらを編集して新しいものとして保存したり、新しいワークスペースを作成してそこで編集したりすることは可能です。

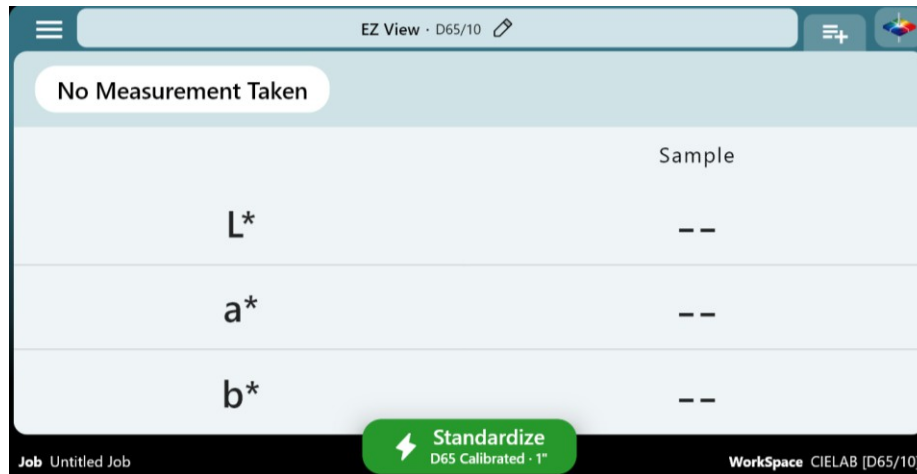


図2. 起動画面

標準化

画面中央下部の緑色のアクションボタンには、有効な標準化が存在しない場合、「STANDARDIZE」と表示されます。光沢センサーはデフォルトで有効になっており、すべての測定に含まれます。以下の手順は、デフォルトのワークスペース設定に関するものです。

標準化の手順

1. 標準の 25.4mm (1 インチ) ポートプレートを装着します。**STANDARDIZE** ボタンを押します。
2. ブラックガラス標準品をセンサーポートに配置し、「**MEASURE**」を押します。

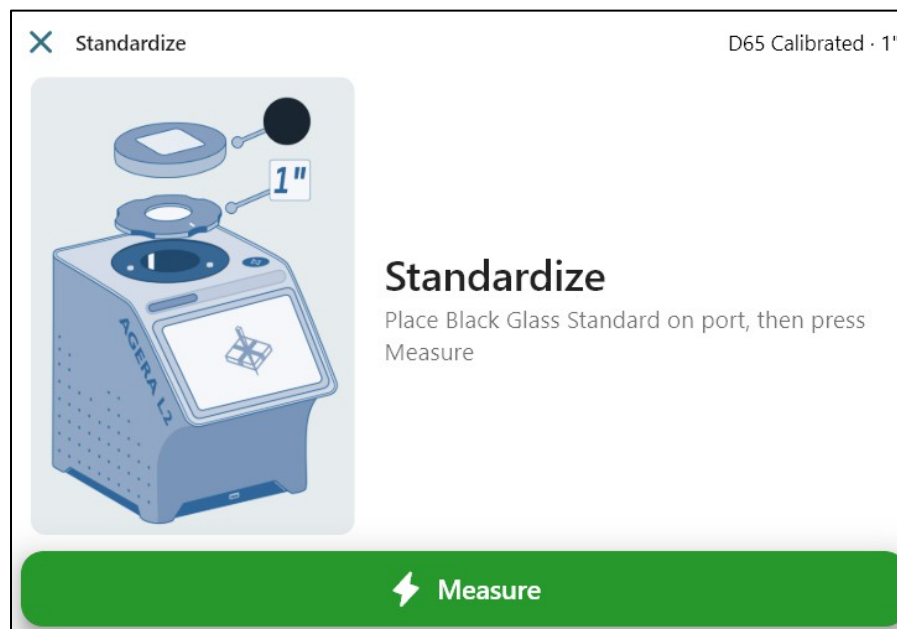


図3. 黒色ガラス標準板による標準化

3. ブラックガラス標準板を認定機器標準板（白）と交換し、「**MEASURE**」を押します。

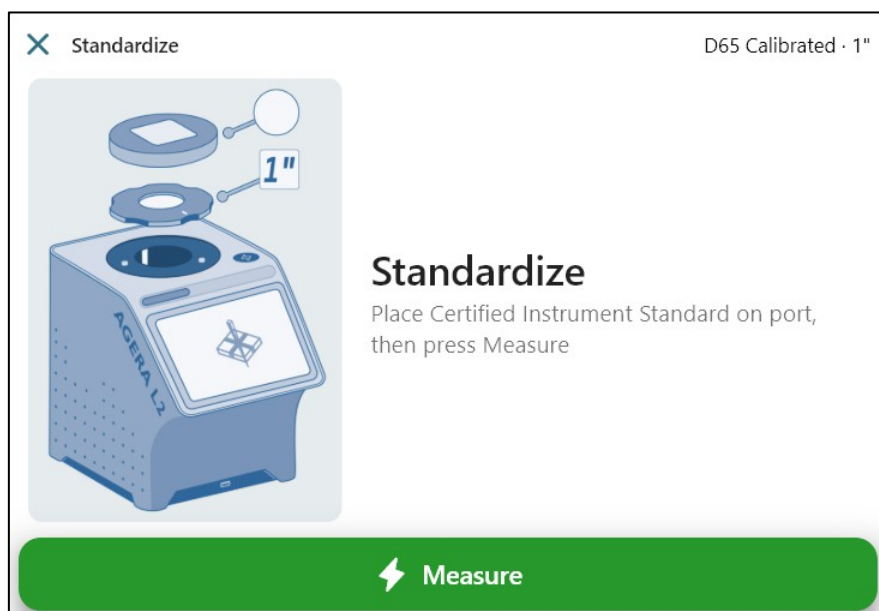


図4. 認定機器標準（白）を読み取る

- 認定測定標準液を取り外し、**診断チェック用標準液（緑色）**をポートにセットします。**「MEASURE」**ボタンを押します。25.4mm（1インチ）標準ポートプレート用の診断チェック用標準液の値は、工場出荷時に設定されており、タイルの裏面に記載されています。

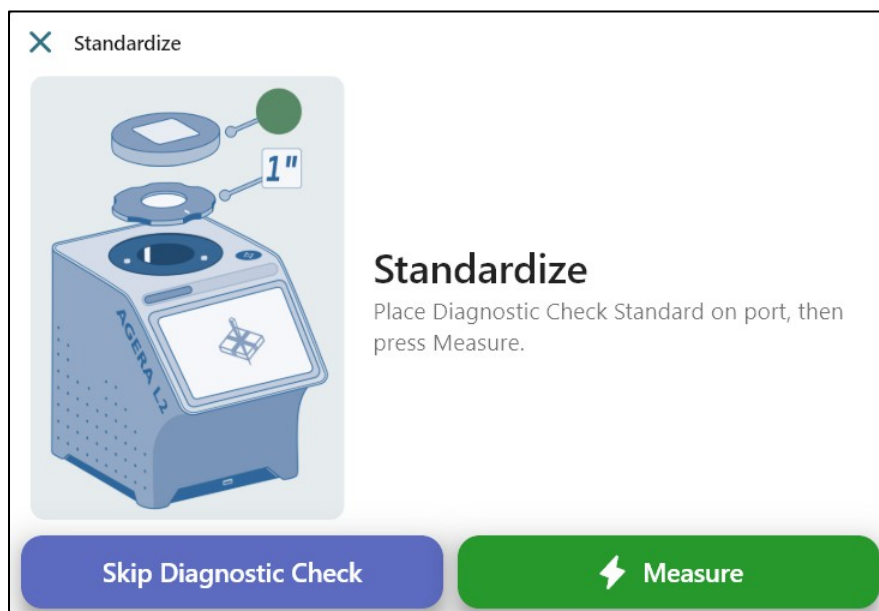


図5. 診断チェック標準液を読み取る

標準化における診断チェック

オプション：診断チェック標準液のテストをスキップするには、「**SKIP DIAGNOSTIC CHECK**」をタップします。スキップすると機器の性能に影響が出る可能性があり、警告メッセージが表示されます。

注：診断チェック標準の測定に失敗した場合は、機器、認定機器標準、診断チェック標準、および/または黒ガラス標準を清掃し、テストを再実行してください。問題が解決しない場合は、HunterLab サポートにお問い合わせください。

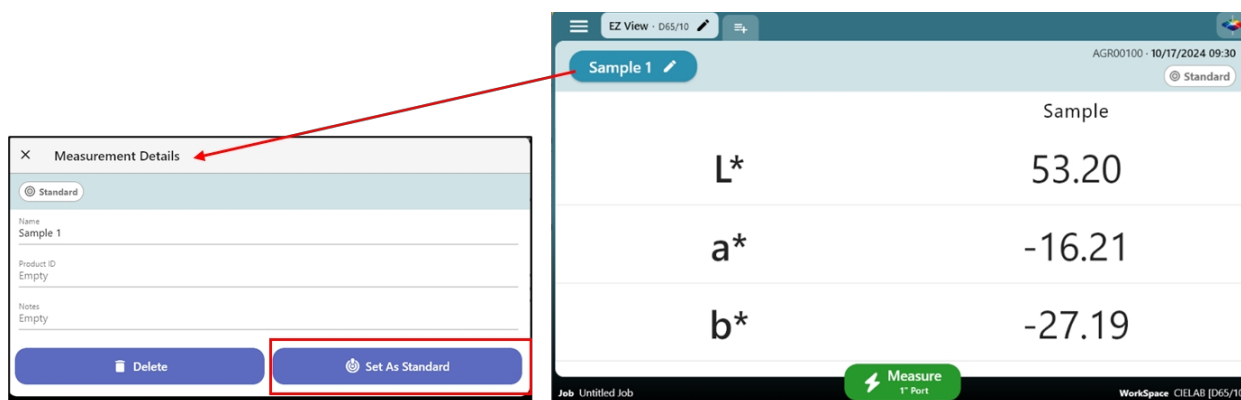
お客様が別の標準化モード（例：異なるポートプレート、エリアビュー、UVモード、または光源プロファイルの使用）を設定した場合、最初の特種ポートプレート標準化では、診断チェック標準（緑）の測定を5回行い、その平均値を、その特定のポートプレート標準化モードでの今後の診断チェックにおける目標値として使用します。

ユーザーは、[SYSTEM MENU] → [INSTRUMENT SETTINGS] → [DIAGNOSTICS]にて、特殊インサート／ポートプレート用の診断チェック標準（緑）の目標値をリセットできます。

サンプルの読み取り

サンプルの測定方法：

1. サンプルを準備し、ポートプレートに載せます。
2. **MEASURE** を押します。「CIELAB [D65/10]」のデフォルトワークスペースはアドホック/ワーキング標準タイプを使用するため、最初の測定値が標準として扱われます。
3. このジョブで別のサンプルを標準として設定するには、サンプルを測定し、その名前をタップして、「標準として設定」を選択します。



4.

図6. サンプルを標準として設定する

5. 「測定詳細」ダイアログで、該当する行をクリックして、「サンプル名」、「製品ID」、および「メモ」を集めます。「削除」を使用して、サンプルの測定値を削除します。

あるいは、CIE Lab D65/10で標準値を読み取り、数値標準として入力することもできます。画面右下の「ワークスペース」を押してください。

「現在のワークスペースを編集」を選択します。「次のステップ」を選択して「標準および許容差」に進み、標準の種類を選択します：アドホック/ワーキング（サンプルを標準として設定）、フィジカル（測定）、数値（値を入力）、またはヒッチ/転送（既知の標準または別の機器を使用）。

The screenshot shows the 'Edit Workspace Coffee' interface. On the left, a sidebar lists four steps: 1. Standardization Mode, 2. Standards & Tolerances (selected), 3. Measurement Options, and 4. Export Options. The main area is divided into three tabs: 'Color Standard', 'Color Differences', and 'Indices'. The 'Color Standard' tab is active, showing a red-bordered box around the 'Ad Hoc / Working' standard type, 'CIELAB' color scale, and 'D65/10' illuminant. Below this, there are input fields for 'Target' and 'Tolerances (Difference)' for L*, a*, and b* color channels.

図7. 簡易標準の設定

EZ VIEWの編集

サンプル名ボックス

画面の左上隅にあるこのボックスでは、サンプル名の編集、削除、またはタップして標準として設定することができます。ボックスは測定された色に対応する色でハイライト表示され、一目で確認できます。

情報エリア

画面の右上隅にあるこの領域には、機器のシリアル番号、時刻、日付、および合格/不合格ステータスが表示されます。測定が標準値である場合、この領域には「標準」と表示されます。

表示オプション

EZ Viewボックス内の鉛筆アイコンをタップし、「**DISPLAY OPTIONS**」を選択します。「**SHOW STANDARD**」および「**SHOW DIFFERENCES**」の横にあるラジオボタンを選択すると、簡易的な差異が表示されます。ビューへの変更はすべて、現在のワークスペースに自動的に保存されます。ビュー編集の詳細については、「**VIEWS**」を参照してください。

ワークスペースとジョブの変更または追加

Essentials L2のワークスペースは、製品設定に類似しています。ワークスペース下のジョブは、関連するデータファイルとして機能します。ワークスペースを起動すると、そのワークスペースの下で新しいジョブを作成したり、既存のジョブを開いたりできます。

ワークスペースを変更または追加するには、画面右下のワークスペース名をタップします。「**DIFFERENCES/INDICES**」、「**READ OPTIONS**」、「**DATA EXPORT OPTIONS**」などの設定を編集します。

ワークスペース内のジョブは、画面左下のジョブ名をタップして管理できます。ユーザーは新しいジョブを作成するか、既存のジョブを選択して、**名前の変更**、**削除**、**エクスポート**

、または印刷を行うことができます。

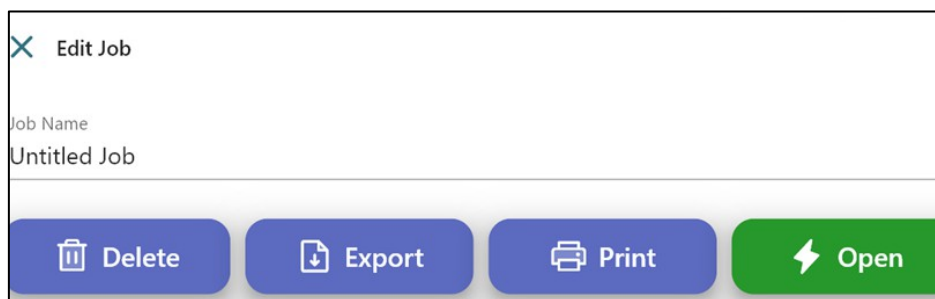


図8. ジョブの名前変更、削除、エクスポート、印刷

ジョブのエク

スポート

ジョブは、**CSV**、**PDF**、または**XLS**形式でフラッシュドライブにエクスポートできるため、**Microsoft Excel** や自動化ソフトウェアで簡単に開くことができます。PDF をエクスポートする場合、**カラーデータテーブル**と**スペクトルデータテーブル**のどちらをエクスポートするかを選択できます。ジョブ内に保存されている画像は、**zip フォルダ**内の**JPEG ファイル**としてエクスポートできます。

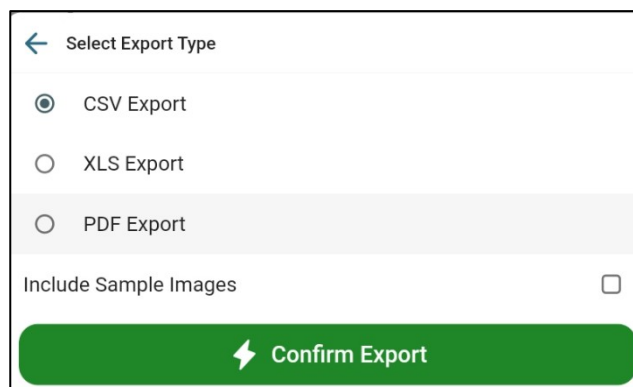


図9. エクスポート形式の選択

「**エクスポートの確認**」を押して、「サンプル画像を含める」のチェックボックスにチェックを入れます。

ジョブのエクスポート - 複数のジョブ

ワークスペース内の複数のジョブをまとめてエクスポートするには：

- 「ジョブ」ダイアログで、ジョブを長押しして「複数ジョブ管理モード」を有効にします。
- ゴミ箱アイコンとエクスポートアイコンが表示されます。
- 必要に応じて複数のジョブを選択し、このダイアログの右上隅にあるエクスポートアイコンをタップして、選択したジョブをエクスポートします。

ジョブの印刷

機器と Android 対応プリンタが同じネットワーク上にあることを確認してください。

- **開始** – Essentials 2 で「**EDIT JOB**」を開き、「**PRINT**」をタップします。
- **ビューの選択** – 「**カラーデータテーブルビュー**」または「**スペクトルデータテーブルビュー**」を選択し、もう一度 **[印刷]** を再度タップします。
- **プリンタの選択** – Android の印刷ダイアログに、ネットワーク上のすべてのプリンタが一覧表示されます。1 台を選択してください。Essentials 2 は、次回のために選択内容を記憶します。部数、用紙サイズ、カラーモード、向き、両面印刷、およびページ範囲は、ここで変更できます。
- **印刷** – 「**PRINT**」アイコンをタップしてジョブを送信します。

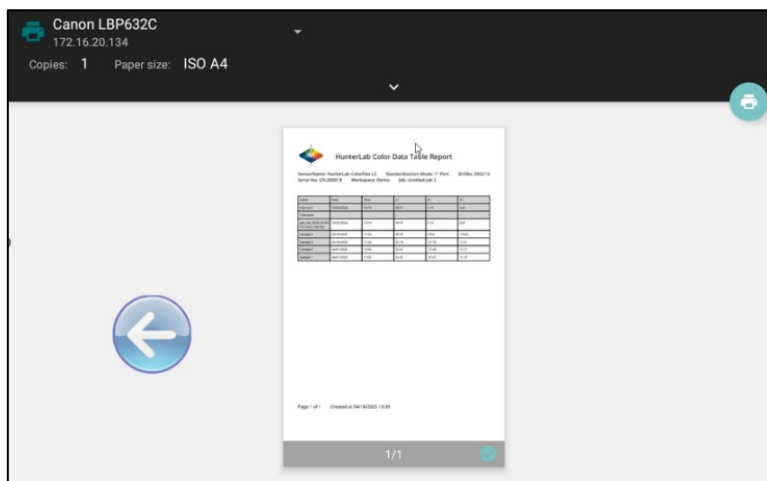


図 10. ジョブの印刷

あるいは、画面左上の **[SYSTEM MENU]** をタップし、**[JOBS]** または **[WORKSPACE]** を選択して、ジョブやワークスペースを変更または追加することもできます。

「システムメニュー」では、「機器設定」、「データ管理」、「定期診断」、「標準化」などの追加設定を利用できます。

Essentials L2 画面の操作：

EasyMatch Essentials L2のメイン画面を以下に示します。

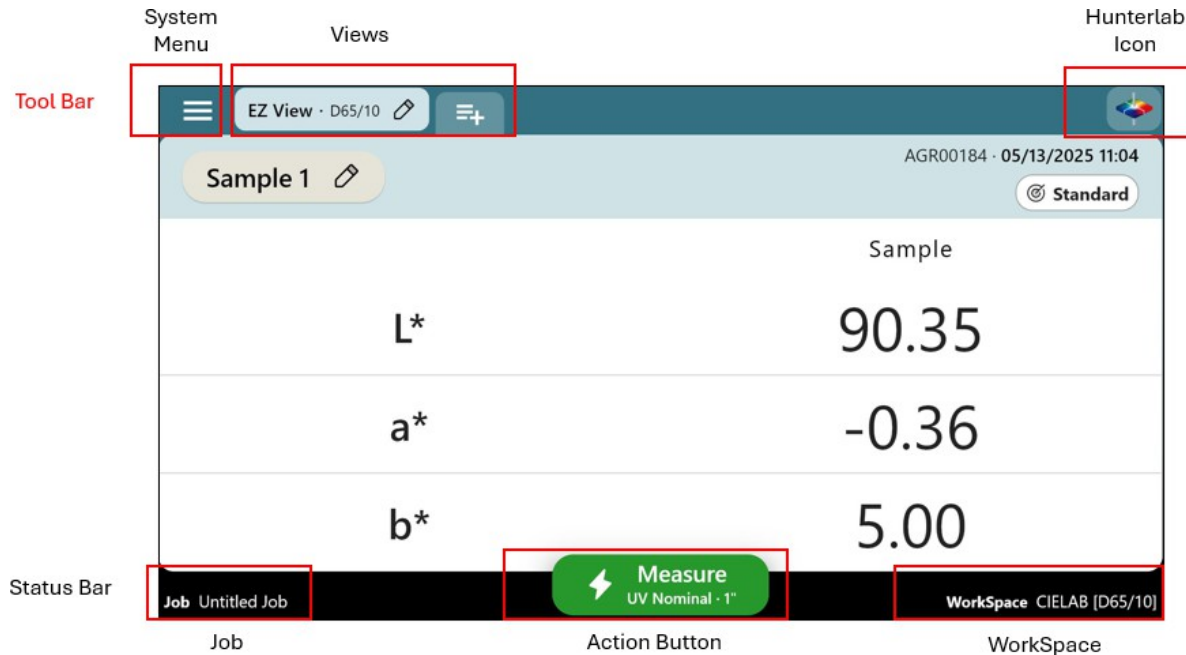


図 11. Agera L2 Essentials L2 のユーザーインターフェース画面

ステータスバー - ジョブ、アクションボタン、およびワークスペース

画面下部のステータスバーには、以下の機能が含まれています：

ステータスバー：ジョブ

現在のジョブの名前が表示されます。このボタンをタップして新しいジョブを作成するか、既存のジョブを選択して名前を変更、削除、または CSV、XLS、PDF ファイルとしてエクスポートします。

複数のジョブを管理するには：

1. ジョブを長押しして「**複数ジョブ管理モード**」を有効にします。
2. 「**ゴミ箱**」アイコンと「**エクスポート**」アイコンが表示され、複数のジョブを選択して削除またはエクスポートできるようになります。

注：各ジョブファイルには最大2000件の測定値を含めることができます。この上限に達すると、測定ボタンが「新規ジョブ」ボタンに変わります。

ステータスバー：アクションボタン

アクションボタンを使用すると、標準化、測定の実施、ワークフローの次のステップへの移行などの主要な操作を実行できます。機器ポートの横にある物理的なアクションボタンは、画面上のアクションボタンと同じ役割を果たします。

ステータスバー：ワークスペース

ワークスペースを変更または新規作成するには、ステータスバーの「**WORKSPACES**」を押します。これにより、利用可能なすべてのワークスペースのリストが開きます。

- **現在のワークスペース**は常に最初に表示されます。
- 残りのワークスペースは、「**最終使用日**」順または「**アルファベット順**」で表示されます。検索アイコン（🔍）をクリックすると、ワークスペース名を検索できます。
- アドホック/ワーキング以外の標準タイプを持つワークスペースについては、そのワークスペースに含まれる標準に対応する色でハイライト表示され、一目で確認できるようになっています。

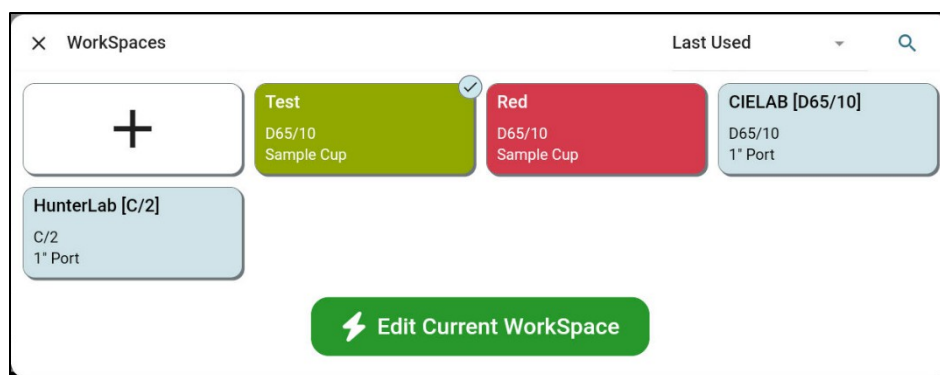


図12. ワークスペースの編集または新規作成

ワークスペースの管理

ワークスペースの起動

- [ワークスペース] ダイアログに表示されている既存のワークスペースをタップします。
- 「**起動**」ボタンをクリックして、選択したワークスペースを読み込みます。

新しいワークスペースを作成する

- 「+」アイコンをタップして、**新しいワークスペース**を作成します。既存のワークスペースをテンプレートとして選択し、「**続行**」を押します。
- 指示に従って、新しいワークスペースの設定を変更します。詳細については、「**システムメニュー**」>「**ワークスペース編集**」を参照してください。
- 新しいワークスペースに**名前**を付けて**保存**します。

ワークスペースを削除する

ワークスペースを長押しして削除モードを有効にします。ゴミ箱アイコンが表示され、削除するワークスペースを複数選択できるようになります。削除モードを無効にするには、すべてのワークスペースの選択を解除してください。

注：デフォルトのワークスペースおよびアクティブなワークスペースは削除できません。

ツールバー – システムメニュー、ビュー、HunterLab アイコン

画面上部のツールバーには、[システムメニュー]、[ビュー]、および [HunterLab アイコン] があります。

ツールバー：システムメニュー

システムメニューは画面の左上隅にあります。3本のバーのアイコンをタップすると、以下のオプションにアクセスできます：

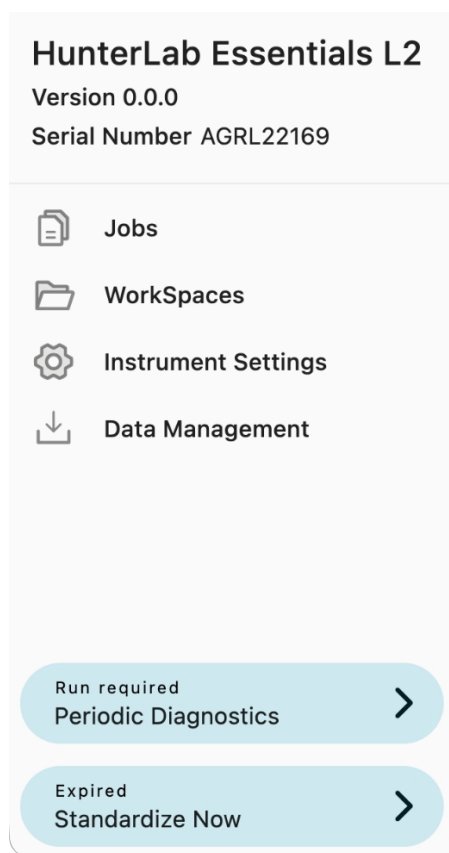


図 13. システムメニュー

- **ジョブ／ワークスペース**

データや設定を管理するための「ジョブ」または「ワークスペース」ダイアログを開く別の方法。

- **機器設定**

標準化間隔の設定、他の機器からの製品設定のインポート、日付と時刻の変更、言語の選択、画面の向き反転、セキュリティ設定など、主要な設定を行います。詳細については、「**機器設定**」を参照してください。

- **データ管理**

ジョブやワークスペースをフラッシュドライブにエクスポートします。

- **定期診断**

診断の状態を確認し、信号レベル、再現性、診断チェック標準テストなどの診断テストを実行します。詳細については、「機器設定」>「診断」を参照してください。

- **今すぐ標準化**

現在の光源、ポートサイズ、視野を表示し、標準化の前にこれらのパラメータを変更できるようにします。

ツールバー：ビュー

ツールバーの「ビュー」セクションでは、現在のビューがツールバーの中央に表示されます。利用可能なビューは以下の通りです：

- EZ VIEW、
- カラーデータテーブルビュー、
- スペクトルデータビュー、
- スペクトルプロットビュー、
- カラープロットビュー

各ビューの詳細については、「ビュー」を参照してください。**ビューの管理**

- **ビューの追加/削除**

「」アイコンをタップし、リストから目的のビューを選択します。

- **ビューの順序変更**

選択したビューをタップして押し続け、目的の位置にドラッグします。

- **変更の保存**

「保存」をタップして変更を適用します。保存後、ツールバーのタブを使用してビュー間を移動できます。

注：各ビューは1つのタブでのみ開くことができます。Essentials L2 は、同じタイプのビューを複数のタブで開くことはサポートしていません。

ビューの編集

- 画面に現在表示されているビューが、Essentials L2 における**アクティブなビュー**です。
- アクティブなビューのみ、そのタブに鉛筆アイコンが表示されます。鉛筆アイコンをタップしてビューを編集します。
- ビューがアクティブでない場合は、まずタップして表示し、もう一度タップして編集オプションにアクセスしてください。
- 画面上部の左矢印、またはビュー画面の任意の場所をタップして、[ビューオプション]を終了します。

ツールバー：HunterLab アイコン

HunterLab アイコンは画面の右上隅にあります。また、任意のページで3本の指を使って上にスワイプしてもアクセスできます。

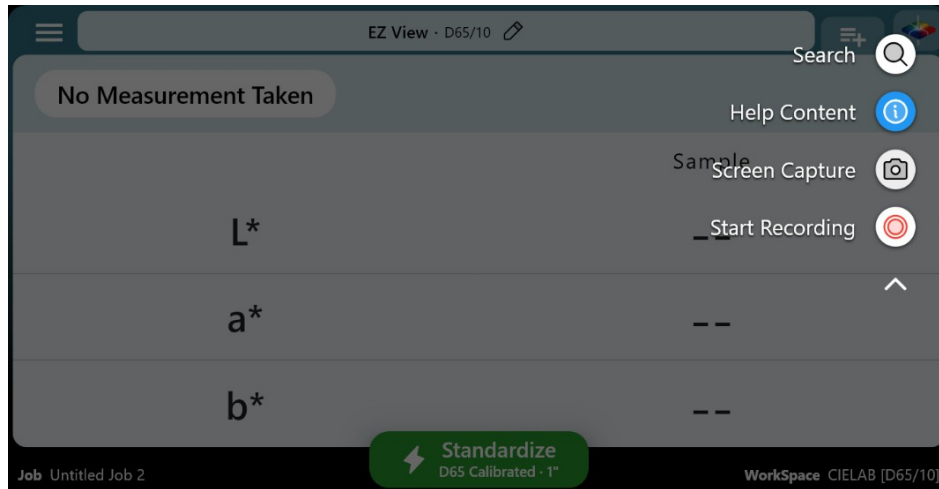


図14. HunterLab アイコン

グローバル検索

グローバル検索を使用すると、ジョブ、ワークスペース、または機器設定をすばやく見つけることができます。

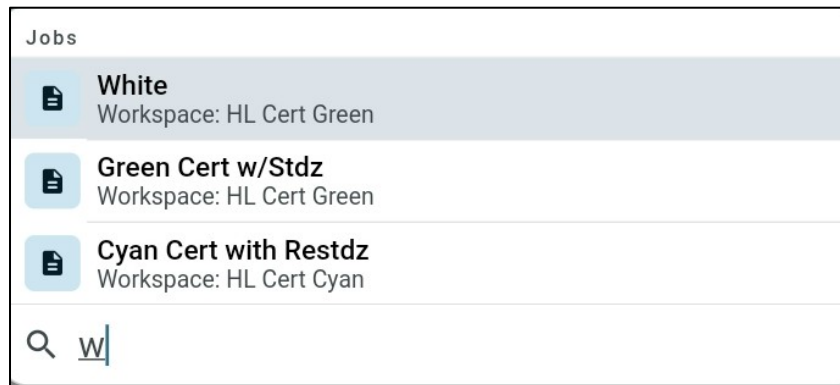


図15. ジョブおよびワークスペースのグローバル検索

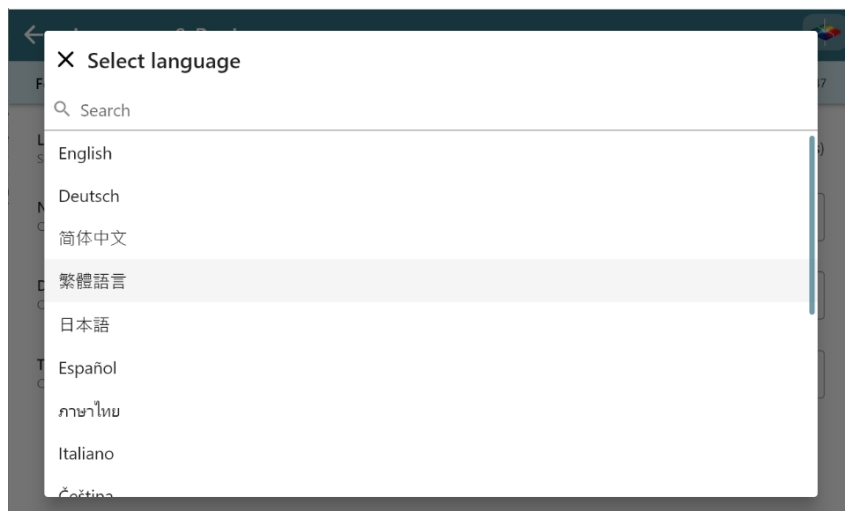


図 16. 検索言語

ヘルプコンテンツ

この機能を選択すると、ソフトウェアの主な機能を確認できます。

スクリーンキャプチャ

HunterLab アイコンを長押しして、画面キャプチャ機能を有効にします。「画面キャプチャ」をタップすると、現在の画面の画像が接続されたフラッシュドライブに保存されます。

録画

「録画」機能を使用すると、Essentials L2の画面を録画できます。「録画開始」をタップして開始します。停止するには、HunterLabアイコンを再度タップし、「録画停止」を選択します。動画は接続されたUSBメモリに保存されます。

ワークスペースの編集

ワークスペースのメインダイアログでは、現在のワークスペースボックスの右上隅にチェックマーク（✓）が表示されます。すべてのワークスペースがボックス内に一覧表示されます。ワークスペースに物理的または数値的な標準が保存されている場合、そのワークスペースボックスには対応する色で表示されます。

ワークスペースを管理するには、そのボックスをタップします。3つのドットのメニュー（⋮）から、「名前の変更」、「お気に入りに追加」、「検索ラベルの印刷」、またはワークスペースの削除（デフォルトのワークスペースでない場合）を行うことができます。

「ラベルを印刷」オプションを選択すると、選択したワークスペース固有のバーコードが生成され、ユーザーはバーコードをスキャンしてそのワークスペースに切り替えることができます。ラベルプリンターが接続されている場合、Essentials L2から直接バーコードを印刷できます。

ワークスペース検索ラベルを印刷

3点メニューの「ラベルを印刷」オプションを選択すると、選択したワークスペース固有のバーコードが生成され、ユーザーはそのバーコードをスキャンすることでそのワークスペースに切り替えることができます。

- 推奨されるラベルサイズは以下の通りです：
 - 29x90 mm（宛名ラベル）
 - 62x100 mm（配送ラベル）
 - 幅62 mmのロール（連続配送ラベル）
- ラベルプリンターをAgera L2のUSBポートに接続してください。**Brother QL-800 高速プロフェッショナルラベルプリンター**は、Agera L2 Essentials L2での使用に推奨され、サポートされているモデルです。
- WorkSpaceダイアログで、印刷したいWorkSpaceボックスをタップします。3点メニュー（⋮）をタップし、「**検索ラベルを印刷**」オプションを選択して、選択したWorkSpace専用のQRコードを生成します。
- Agera L2でラベルをスキャンすると、関連するWorkSpaceが即座に読み込まれます。

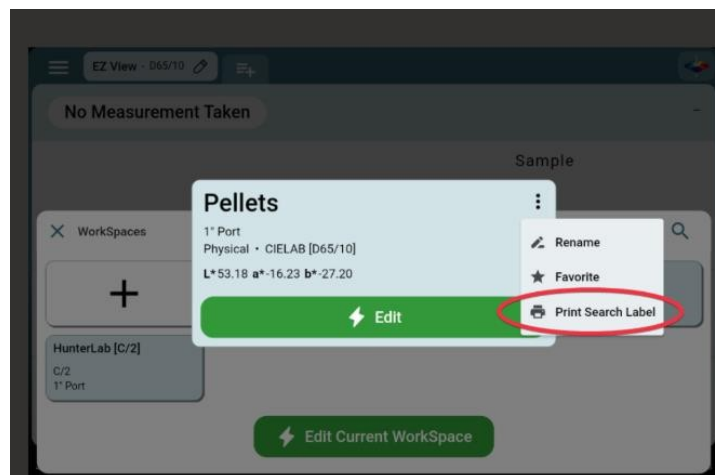


図 17. 3 点メニューの「検索ラベルを印刷」

- ユーザーは、EZ ビュー、カラーデータテーブルビュー、またはスペクトルデータテーブルビューでサンプル名をタップできます。これにより、「サンプル測定詳細」ダイアログが開き、そこで「ラベルを印刷」をクリックして、その特定のサンプルのラベルを印刷できます。

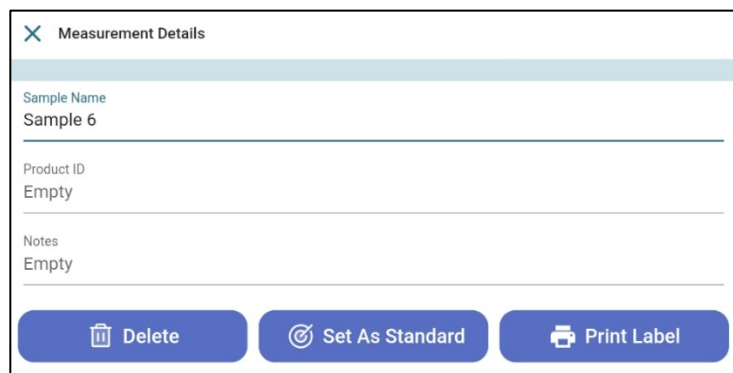


図18. サンプル測定詳細

ワークスペースの編集

現在のワークスペースを編集するには、「**EDIT CURRENT WORKSPACE**」をタップし、必要に応じて設定を変更します。ラベルを印刷するには、ダイアログの右上隅にある3つのドットのオプションを使用します。

3つのドットのオプションでは、ワークスペースの「**名前変更**」、ワークスペースのお気に入り登録、および「**検索ラベルの印刷**」を行うことができます。

新しいワークスペースを作成するには、「+」アイコンをタップし、画面上の指示に従って設定およびカスタマイズを行います。

既存のワークスペースを編集する

1. ダイアログで目的のワークスペースをタップします。
2. 「**起動**」をタップしてワークスペースを読み込みます。
3. メインダイアログに戻り、「**現在のワークスペースを編集**」をタップして、選択したワークスペースを変更します。

「ワークスペースの編集」ダイアログで、左側のパネルに表示されている手順（「**標準化モード**」、「**規格と許容差**」、「**測定オプション**」、「**エクスポートオプション**」）に従ってください。

設定が完了したら、ワークスペースの設定を保存して終了します。

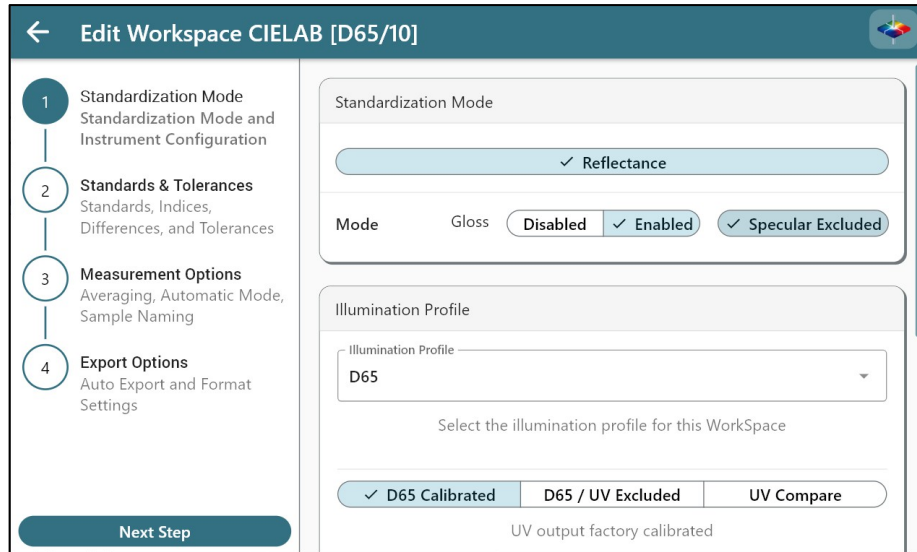


図19. 標準化モード

標準化モード

光沢

このパラメータは、色に加えて測定することができます。光沢はデフォルトで有効になっています。光沢の測定が必要ない場合は、**[SYSTEM MENU] > [INSTRUMENT SETTINGS] > [GENERAL]** に移動し、この測定機能を **無効にしてください**。なお、光沢の測定値を画面に表示する必要はありません。

照明プロファイル

Agera L2では3つの照明プロファイルが利用可能です。照明プロファイルを変更するには、**[ワークスペース] > [編集] > [標準化モード] > [照明プロファイル]** に移動してください。

1. **D65光源モード** – ほとんどの用途において推奨されるデフォルトの照明プロファイルです。D65はデフォルトの照明プロファイルです。「D65 Calibrated」には、工場出荷時のUVキャリブレーションが含まれています。
2. **暗所性能モード** – 暗所サンプルにおける再現性を最適化した D65 照明プロファイルを使用します。サンプルが暗所モードに対して明るすぎる場合、装置は測定を実行しません。この機能は、20% 未満の反射率値に最適です。

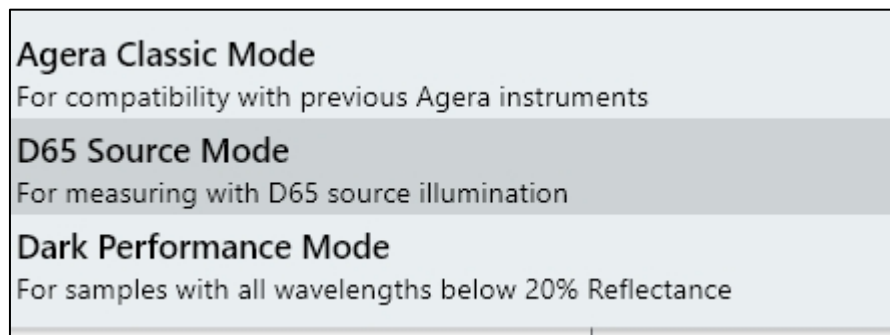


図20. 照明プロファイルの選択

3. **Agera Classicモード** – 旧型Agera装置との互換性を提供します。Agera Classicモードには、以下のUVオプションが含まれます：UV Nominal、UV Excluded、UV Calibrated、およびUV Compare。UV Nominalには工場出荷時のUVキャリブレーションが含まれます。UV Calibratedでは、UV標準品を使用してUVをキャリブレーションできます。ワークスペースでUV Calibratedを設定した後、緑色のアクションボタンに従ってUVキャリブレーションを実行してください。

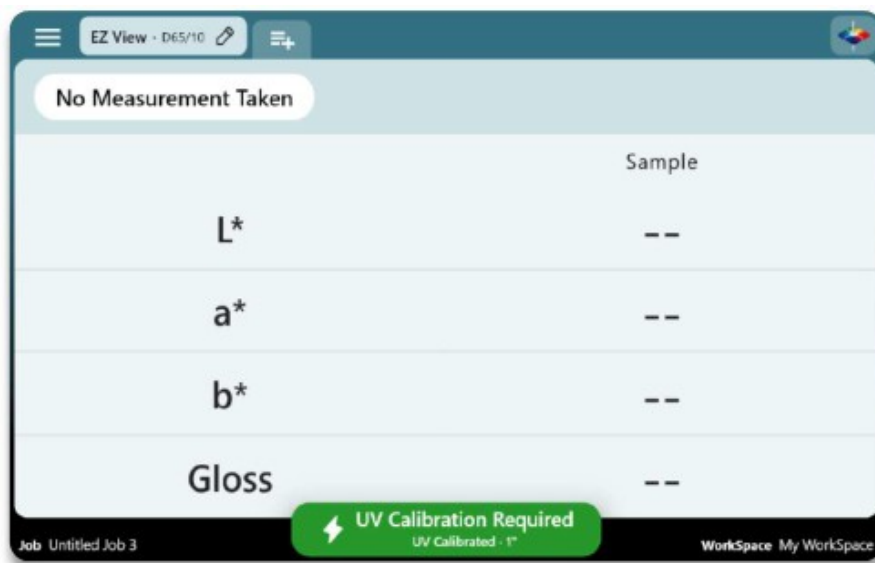


図21. クラシックモード

白色度指数を選択し、蛍光標準板の裏面に記載された目標値を入力します。蛍光標準板をポートに設置し、「**MEASURE**」を押して続行します。

← UV Calibration

Index
Select the index specified on your fluorescent standard

WI Ganz [D65/10]th

Target
Enter the target value printed on your fluorescent standard

WI Ganz [D65/10]
WI E313 [D65/10]

Select the applicable Whiteness Index and input the fluorescent standard value to be used for calibration

⚡ Measure

図22. UVキャリブレーションの目標値と指数

ポートプレート

ワークスペースで使用するポートプレートをAgera L2に設置します。「Read Port Plate」をクリックして現在取り付けられているポートプレートを検出するか、ドロップダウンリストから正しいポートプレートの種類を選択します。

図 23. ポートプレートの選択

「視野範囲」で「自動」を選択すると、選択したポートプレートに基づいて適切な視野範囲が適用されます。ユーザーは「詳細」を選択して、実際のポートプレートのサイズを超えない範囲で視野範囲（5/8インチ、1インチ、または2インチ）を手動で選択できます。このオプションは、半透明の材料を測定する際に役立ちます。

表3：ポートの選択

ポート 構成	ポートサイズ： 15.9mm (5/8インチ) 15.9mm (5/8インチ) (ガラス付き) 25.4mm (1インチ) 25.4mm (1インチ) (ガラス付き)50.8mm (2 インチ) 50.8mm (2インチ) ガラス付き サンプルカップ
視野	自動 拡張（5/8インチ、1インチ、または2インチ）

図 24. ポート構成

Agera L2は、取り付けられたポートプレートがワークスペースで定義された構成と一致しているかどうかを自動的にチェックします。不一致が検出された場合、アクションボタン（緑色）がそれに応じて更新されます。「標準化」または「測定」の手順を実行する前に、正しいポートプレートを取り付ける必要があります。

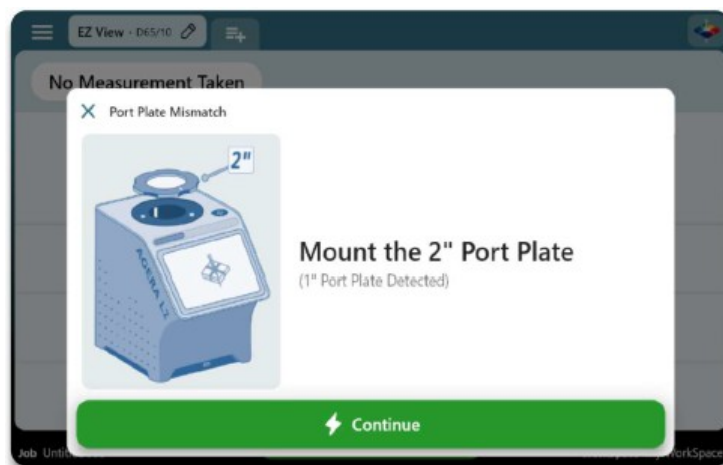


図25. ポートプレートの不一致が検出されました

規格と許容差

以下の表は、「標準と許容差」ダイアログで利用可能なすべての選択項目を示しています。ユーザーは、標準色スケールの種類、色差、指数、光源／観測者を選択し、許容差付きの数値標準を追加することができます。

表4. 利用可能なワークスペースの選択項目

標準の種類	色度系	色差	指標	光源	観測者
アドホック／作業	CIELAB	dE	a/b比	A	2°
物理	CIELCh	dE*	Y	C	10°
数値	ハンターラ b	dC*	YI D1925 (YID)	D50	
ヒッチ／トランスファー	XYZ	dH*	YI E313 (YIE)	D55	
	Yxy ¹	dE CMC	WI GANZ, WI E313	D65	
	Rdab	dE * 2000	Tint	D75	
		グレースケールカラー (GSC)	Zパーセント (Z%)	F2	
		グレースケールステイン (GSS)	457 nm 輝度 (457B)	F7	
		最大吸光度での強度 (SMA)	不透明度 (OP)	F11	
		強度加重 (SW)	光沢		
		メタメリズム指数 (MI)	色相 E313		
			色相 GANZ		
			黒度 (My, Mc, dM) ² グレー度 (Gy, Gc, dG) ²		

1—Yxy カラースケールを使用する場合、色度許容範囲を追加できます。これらは手動で入力するか、標準プリセットのリストから読み込むことができます。画面上の 2D カラープロットの代わりに、色度の絶対カラープロットが表示され、プロットされたポイントの合否インジケータとともに多角形の許容範囲が表示されます。他のビューでも、色度許容範囲の合否が簡単に表示されます。

2—ダークパフォーマンスモードが設定されている場合、インデックスリストでISO黒度および灰度インデックスが利用可能になります。

図26. 標準および許容範囲図

「色基準」タブ

「標準タイプ」、「三刺激色度スケール」、および「光源／観測者」を設定します。

利用可能な「標準タイプ」は以下の通りです。**アドホック**

ク/作業用標準

最初のサンプル測定値は、自動的にアドホック/作業標準として割り当てられます。許容誤差は、標準の選択後に入力できます。必要に応じて、ジョブ内の他のサンプルを手動で標準として設定することができます。

物理標準：このダイアログで物理標準を測定し、標準として使用します。このダイアログの緑色のアクションボタンを使用して、標準化（有効な標準化がない場合）を行い、標準を測定します。複数の測定値とその平均値を標準ターゲットとして使用することもできます。

数値標準：このタイプの標準は、標準値を表す数値によって定義されます。この機能は、物理標準が利用できない場合に使用できます。色スケールと許容差の値を入力してください。

ヒッチ／転送基準：ヒッチ基準は、現在の計測器の測定値をマスター計測器／基準値に紐付けます。この機能により、複数の計測器で同一の製品について同じ測定値を読み取ることができます。

ヒッチ設定：

「ヒッチ/転送」を選択したら、青くハイライトされた「**ヒッチ設定を編集**」をタップし、指示に従ってヒッチを設定してください。

「HITCH TO TILE」または「HITCH TO INSTRUMENT」のいずれかを選択します。「HITCH TO TILE」は、参照値がすでに割り当てられているタイルを使用することを指します。「HITCH TO INSTRUMENT」は、別の機器で以前に測定されたサンプルを使用することを指します。

ヒッチ設定の手順：

1. 「**CONTINUE**」を押します。タイルまたはサンプルをポートに配置し、「**MEASURE**」を実行します。サンプルを測定する際、平均化のための複数回の測定が可能です。
2. 基準となる機器または比較対象の機器から、**タイル**または**サンプル**の値を入力します。
3. 「**加算 (ADDITIVE)**」または「**比率 (RATIO)**」のヒッチ計算を選択します。
4. 「**CONTINUE**」を押します。ヒッチ調整は「**STANDARDS AND TOLERANCE**」ページに表示されます。

既存の測色ヒッチに加え、スペクトルオフセットも設定可能です。

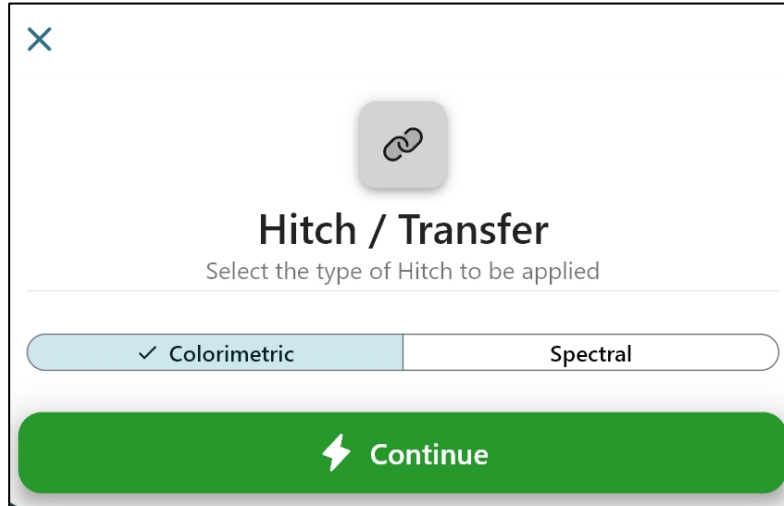
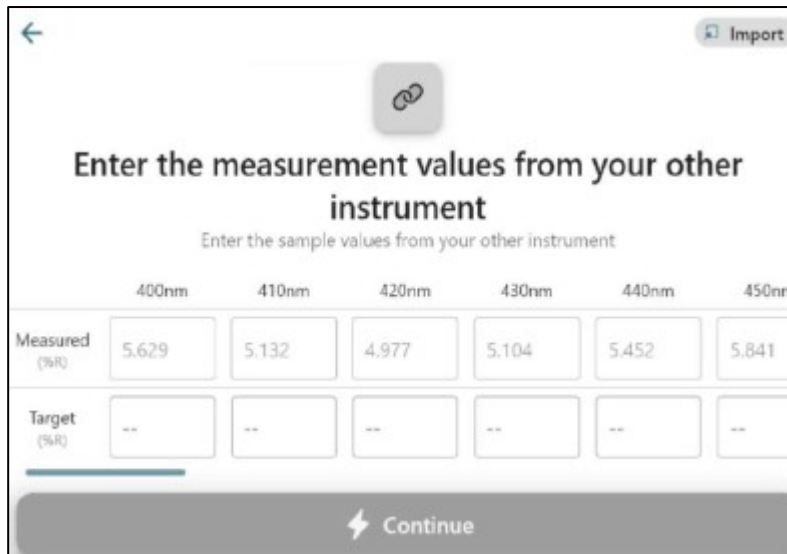


図 27. 測色ヒッチまたは分光ヒッチの選択



	400nm	410nm	420nm	430nm	440nm	450nm
Measured (%R)	5.629	5.132	4.977	5.104	5.452	5.841
Target (%R)	--	--	--	--	--	--

図 28. 測色ヒッチまたは分光ヒッチの選択

「色差」タブ

「**COLOR DIFFERENCES**」タブをタップし、「**DIFFERENCES**」にチェックを入れます。「DIFFERENCES」にチェックを入れると、右側に鉛筆アイコンが表示されます。鉛筆アイコンをタップして許容誤差を設定します。下にスクロールして、その他の差異を確認します。

「インデックス」タブ

「**INDICES**」タブをタップし、測定に必要な指標を選択します。

- 複数の光源/観測者オプションが利用可能な指標がある場合、適切な光源/観測者の選択を支援する「**指標設定**」ダイアログが表示されます。「**続行**」をタップして確定します。
- チェックされた各指数の右側に鉛筆アイコンが表示されます。鉛筆アイコンをタップして、以下の操作を行います：
 - **許容誤差の設定**：絶対値または差分の許容誤差を設定します。
 - **設定**：バイアスやゲインの調整、または（指標に応じた）光源／観測者の設定変更を行います。

測定オプション

測定設定：

3つの読み取りモードが用意されています：**手動**、**自動読み取り**、**平均化**。Essentials L2画面の指示に従って、読み取りモードを設定してください。

測定プロンプト設定：

デフォルトのサンプル名を編集し、「**サンプル名**」、「**製品ID**」、「**メモ**」のプロンプトを有効または無効にします。

AutoSearch設定：

「**AutoSearch Standardに含める**」にチェックを入れると、このワークスペースがAutoSearch Standardモードの対象となります。

エクスポートオプション

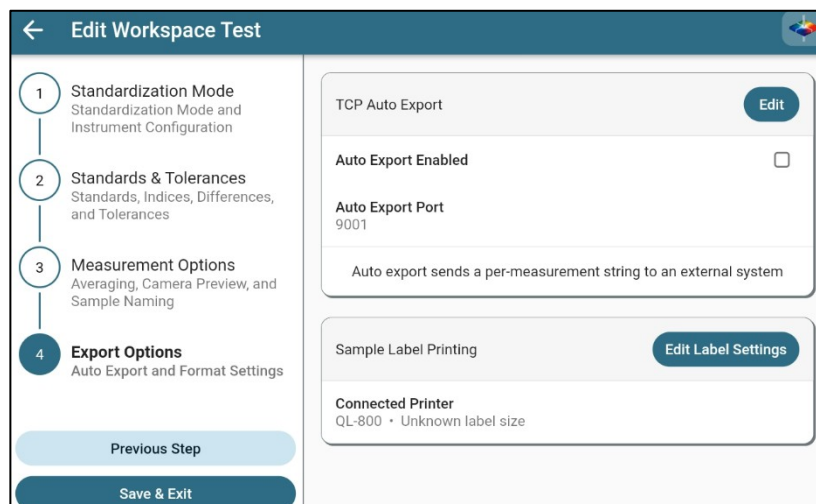


図29. エクスポートオプション

自動エクスポート

「自動エクスポート」を設定して、測定ごとのデータ文字列をデータ収集システムに同時に送信します。Agera L2とデータ収集システムの両方が同じネットワーク上にあることを確認してください。詳細は「機器設定」/「ネットワーク設定」で確認してください

「TCP自動エクスポート」の「編集」ボタンをタップして、以下の操作を行います：

- 「カラースケール」、「差分および指数」、「その他のフィールド」の各カテゴリで、エクスポートするデータを選択します。設定リスト内のフィールドをドラッグして順序を変更します。フィールドを削除するには、左側のゴミ箱アイコンをクリックします。
- 区切り文字の種類を選択します
- 完了したら「保存」を押します。
- 自動エクスポートの**有効化/無効化**
- 自動エクスポートのポートは 9001 に固定されています。

データ収集システムで、TCP/IP 方式を設定します。Agera L2 からデータを収集するために、サーバー IP として Agera IP を、ポートとして 9001 を設定します。

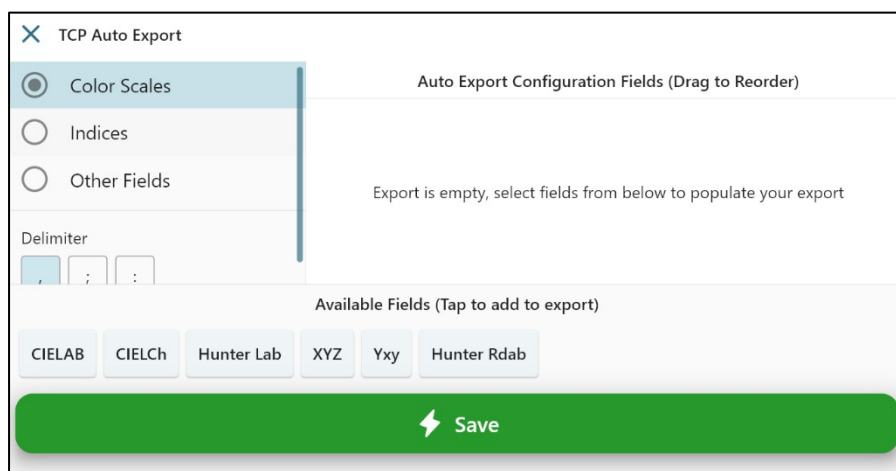


図 30. 自動エクスポートの設定

ラベル印刷の例

Essentials L2 では、互換性のあるラベルプリンタが接続されている場合、**ラベル印刷のサンプル**機能を利用できます。

Brother QL-800 高速プロフェッショナルラベルプリンタは、Agera L2 Essentials L2 での使用に推奨され、サポートされているモデルです。このプリンタは HunterLab では販売しておらず、お客様が別途購入する必要があります。

1. ラベルプリンターを Agera L2 の左側にある USB-A ポートに接続します。
2. 「ラベル設定」メニュー内で、ユーザーはラベルの向き（縦向きまたは横向き）を設定したり、次のようなオプションを選択したりできます：
 - ラベルの自動カット
 - サンプルごとの自動印刷
 - バーコードを含める

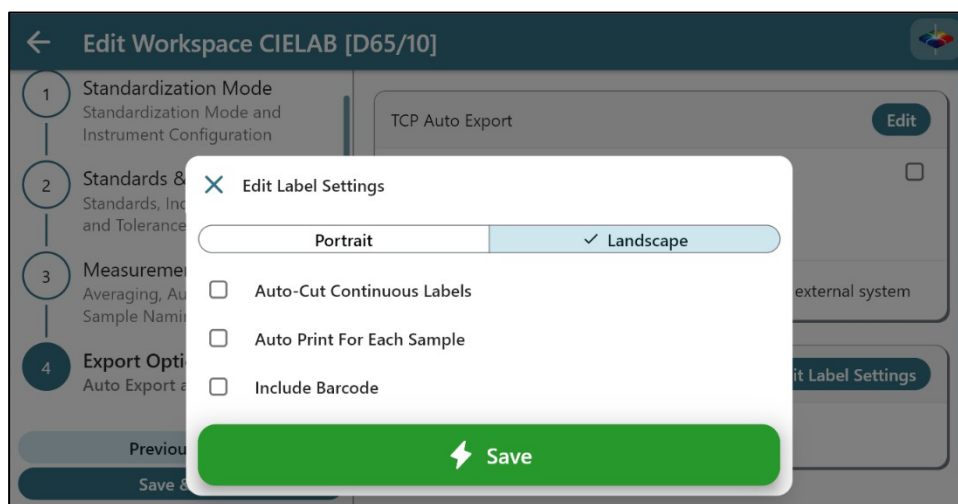


図31. ラベル設定

希望の設定を調整したら、「**保存**」を押します。完了したらワークスペースを保存してください。

3. ユーザーは、EZ ビュー、カラーデータテーブルビュー、またはスペクトルデータテーブルビューでサンプル名をタップできます。これにより、「**サンプル測定詳細**」ダイアログが開き、そこで「**ラベルを印刷**」をクリックして、その特定のサンプルのラベルを印刷できます。

ビュー

すべてのビューはツールバーの中央に表示されます。

- **ビューの編集**：現在のタブをタップして編集します。または、別のビューをタップしてそれを読み込み、もう一度タップしてビューオプションを開きます。編集後、画面上部の左矢印を押すか、ビュー画面の任意の場所をタップして終了します。
- **追加/削除**：ビューを追加するには、プラスアイコン（）をタップします。目的のビューの横にあるボックスをクリックし、「保存」を押します。

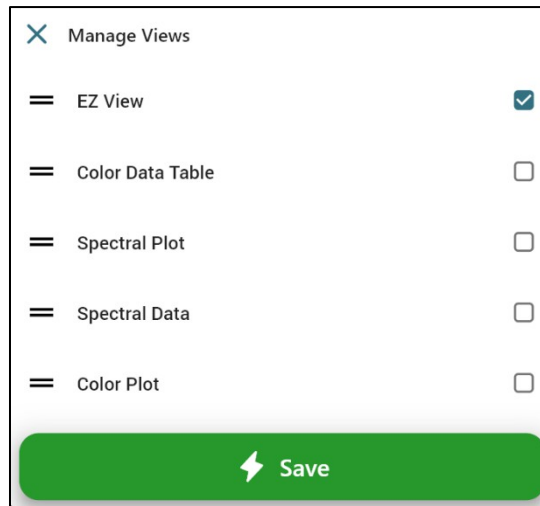


図32. ビューの管理

EZ VIEW

このビューでは、**STANDARD**と**SAMPLE**の比較結果および**PASS/FAIL**の結果が簡潔に表示されます。

概要

サンプル名ボックス

画面の左上隅にあるこのボックスでは、サンプル名を編集したり、削除したり、タップして標準として設定したりすることができます。ボックスは、測定された色に対応する色で強調表示され、一目で確認することができます。

情報エリア

画面の右上隅にあるこのエリアには、機器のシリアル番号、時刻、日付、および合格/不合格のステータスが表示されます。測定対象が標準品の場合は、このエリアに「Standard」と表示されます。

EZ Viewの編集

編集するには、Essentials L2 画面上部の「EZ View 画面」タブをクリックします。

表示オプション：

「SHOW STANDARD」、「SHOW DIFFERENCES」、「SHOW COLOR PLOT」、および調整が含まれます

「PRECISION」。「SHOW COLOR PLOT」を選択すると、EZ Viewに色差プロットが表示され、差分がわかるように自動でスケール調整されます。プロットをタップしても自動スケール調整が開始されます。

カラスケール：

表示する三刺激値カラスケールを1つまたは複数選択します。

差異と指標：

表示する「DIFFERENCES」および「INDICES」を選択します（WorkSpaceでまだ選択されていない場合は、まずWorkSpaceに移動して追加してください）。

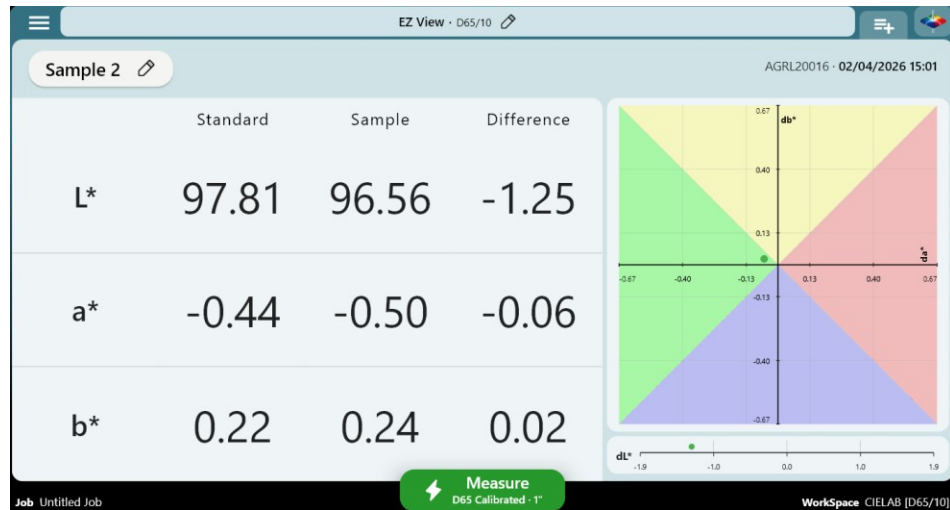


図33. 新しいオプションを備えたEZ Viewの表示

カラーデータテーブル

「COLOR DATA TABLE」には、

図34. カラーデータ表示

The screenshot shows the EZ View interface with the 'Color Data Table' tab selected. The table displays color data for various samples:

Name	Date	Time	L*	a*	b*	dE
Standard (Ad Hoc / Working)			53.18	-16.23	-27.20	-
Sample 2	10/14/2024	9:01:46 AM	53.19	-16.24	-27.19	0.02
Sample 1	10/14/2024	9:01:43 AM	53.18	-16.23	-27.20	-

The 'Time' column is highlighted with a red underline and a hand icon pointing to it. The bottom status bar shows 'Job: Untitled Job' and 'WorkSpace: Day 1'.

図 34. カラーデータの表示

編集アイコン（鉛筆）をクリックするか、[COLOR DATA TABLE VIEW] タブをクリックします。画面の下部に、ビュー設定を編集するためのオプションが表示されます。これには以下が含まれます：

表示オプション：

「標準を表示」、「シリアル番号を表示」、「日付を表示」、「時刻を表示」、「合否を表示」、「製品 ID を表示」、「メモを表示」、および「精度」の編集が含まれます。

色度スケール

表示する三刺激値カラスケールを1つまたは複数選択します。

差分と指標：

表示する差異および指標を選択します（ワークスペースでまだ選択されていない場合は、まずワークスペースに移動して追加してください）。

スペクトルデータテーブル

「スペクトルデータテーブル」には、測定波長における各選択測定項目の反射率（%）が表示されます。画面下部のスライダーを使用すると、すべての測定項目にアクセスできます。

「スペクトルデータ」タブ内の編集アイコン（鉛筆）を使用して、「表示オプション」にアクセスできます。オプションには、標準の表示や測定データの精度変更が含まれます。測定データは、反射率から吸光度、%強度、K/Sへと変更可能です。

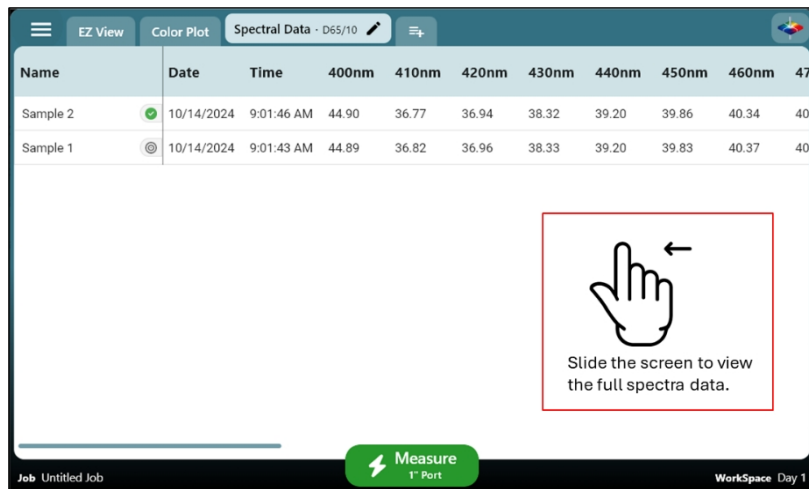


図35. スペクトルデータテーブル

スペクトルプロット

このビューでは、反射率（%）と波長の関係を示すグラフが表示されます。＋ボタンを使用するとプロットが拡大され、－ボタンを使用すると縮小されます。プロット上でカーソルを動かすと、各サンプルについて異なる波長における測定値が表示されます。

スペクトルプロットのオプション：サンプル制限

この設定では、同時に表示されるサンプル数を制御します。最大表示数は10サンプルです。

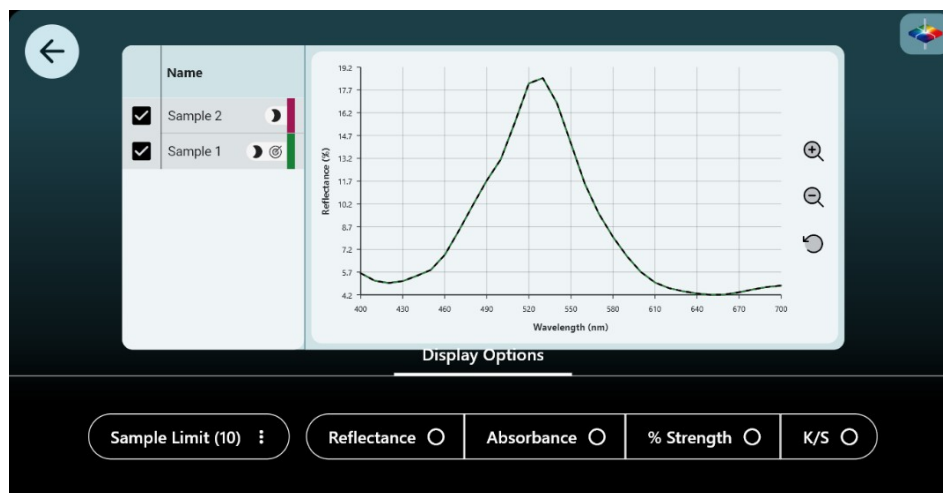


図36. スペクトルプロットビュー

スペクトルプロットのオプション：表示オプション

「反射率」「吸光度」「濃度（%）」および「K/S」から選択してください。

カラープロット

このビューでは、標準色に対するサンプルの位置を2次元色空間上に表示します。標準色は差分測定を中心点となり、各サンプルをプロットしてその変動を示します。各サンプルの位置は、絶対測定における標準色を参照せずに表示されます。ユーザーが「色度スケール Yxy」を選択し、許容範囲ボックスを設定するために4組の色度ペアを入力した場合、このビューは自動的に「2Dカラープロット」から「色度カラープロット」に切り替わります。

サンプルリスト

カラープロットに表示されるサンプルは、画面左側のボックスに一覧表示されます。

- **スケーリングと詳細**：カラープロットは自動的にスケーリングされます。データポイントをクリックすると、各ポイントの情報を詳細に表示できます。
- ユーザーは、表示する項目として「絶対色」、「色差」、「色相」、「彩度」を選択できます。
- 表示オプションには、プロットに表示するサンプルの**制限設定**が含まれます。上限は10です。

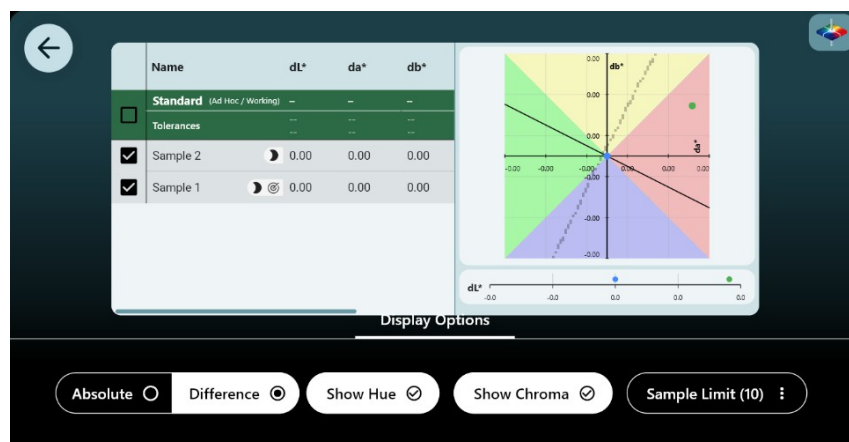


図 37. カラープロットビュー

機器の設定

システムメニューの「**INSTRUMENT SETTINGS (機器設定)**」を押すと、「**INFORMATION (情報)**」の現在の設定が表示され、「**GENERAL (一般)**」、「**DISPLAY & BRIGHTNESS (表示と輝度)**」、「**NETWORKING (ネットワーク)**」、「**AUTOSEARCH STANDARD (標準の自動検索)**」、「**DIAGNOSTICS (診断)**」、「**SECURITY SETTINGS (セキュリティ設定)**」、「**UV CALIBRATION (UV キャリブレーション)**」の設定を編集できます。

INFORMATION 画面には、機器のシリアル番号、バージョン番号、ファームウェアのバージョン、およびセンサー名が表示されます。ネットワーク設定には、IP アドレスと MAC アドレス（接続されている場合）が一覧表示されます。

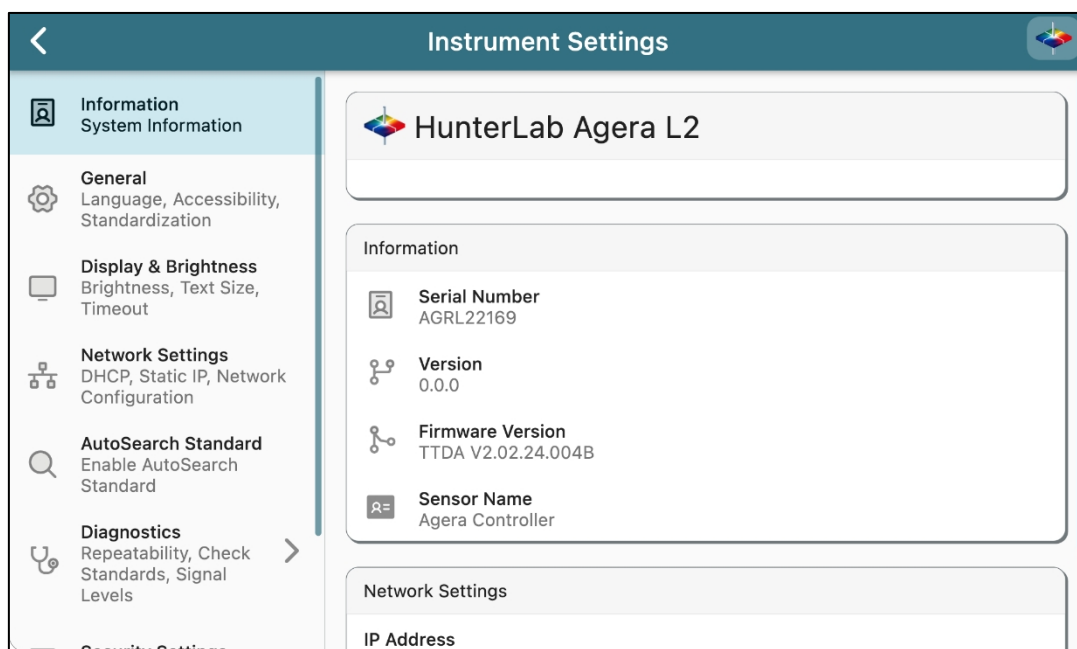


図 38. 機器情報

一般

この画面では、「**標準化間隔**」を 8、12、または 24 時間に設定できます。さらに、「**システム設定**」では、「**日付/時刻**」、「**言語および日付形式**」、ポートでの「**サンプル検出**」、および「**光沢測定**」を調整できます。

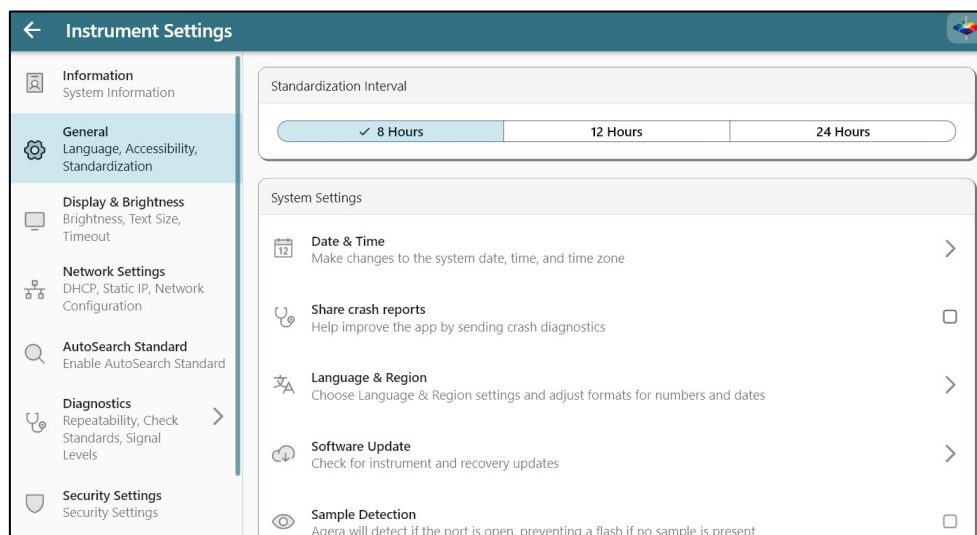


図39. 機器設定：一般

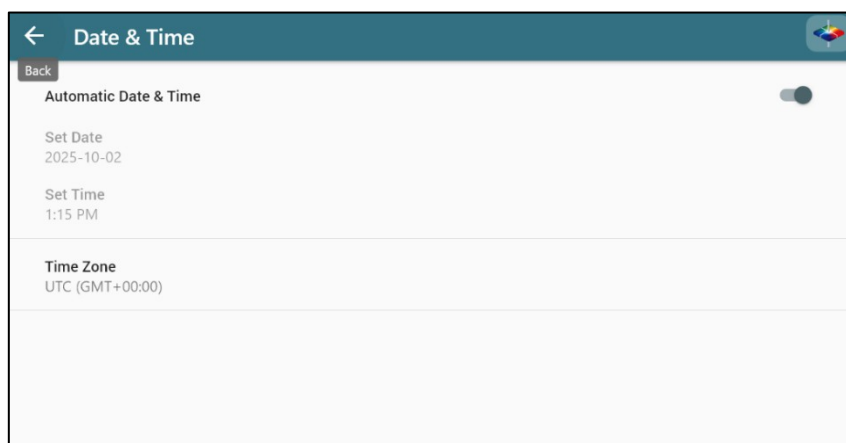


図 40. 日付と時刻

「言語」では、必要な言語の設定、数値表示形式の選択、および地域に合わせた日付と時刻の形式設定を行うことができます。

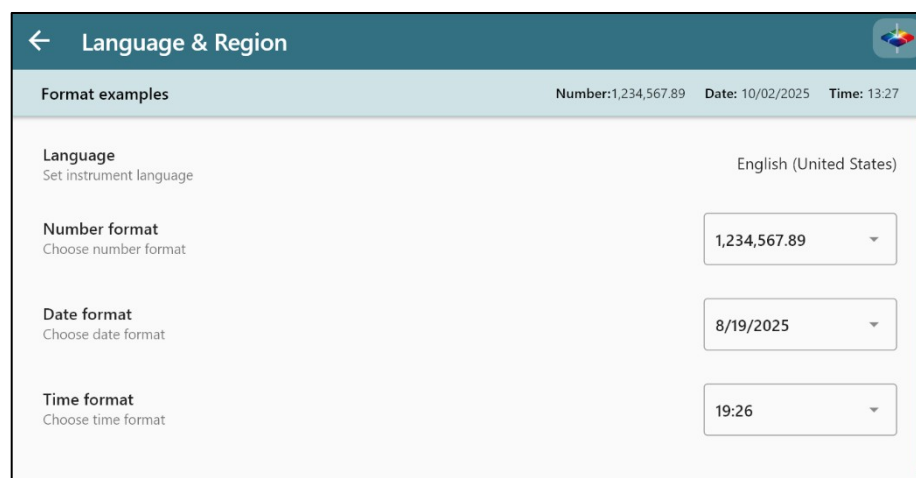


図41. 言語、数値および日付の形式

サンプル検出と光沢測定の切り替え

「サンプル検出」および「光沢測定」は、機器設定でチェックボックスのチェックを外すことで無効にできます。これらの設定は、すべてのワークスペースに即座に反映されます。

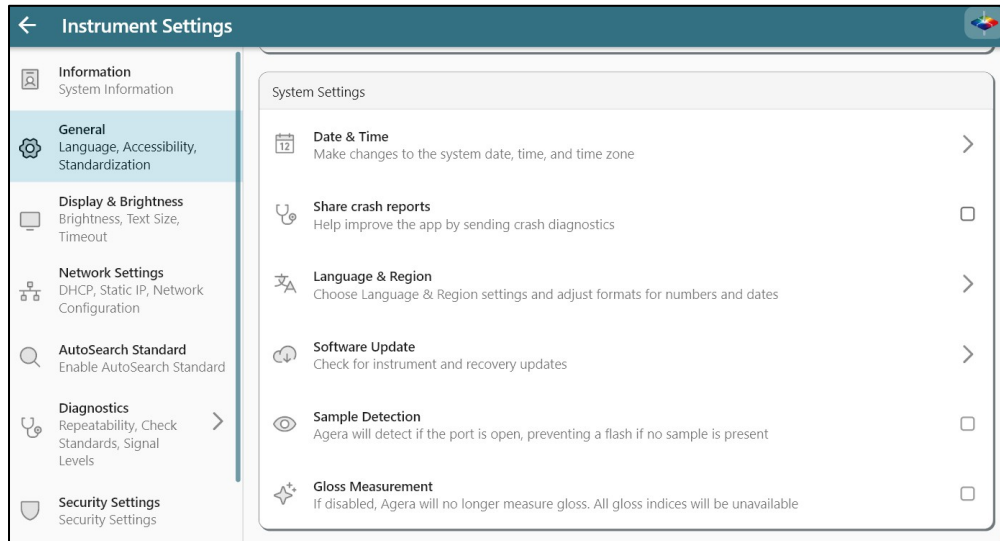


図42. サンプル検出と光沢を有効にする

表示と輝度

外観

表示の背景を白から黒に変更します。

文字サイズ

右側の矢印を押して、フォントサイズを変更します。画面下部のスライダーを使用してフォントサイズを変更するか、**RESET** を押してフォントを元のサイズに戻します。

画面の明るさ

スライダーを使って、希望の明るさを設定できます。

非アクティブ時のタイムアウト

設定した時間が経過すると、画面の明るさが低下します。

ネットワーク設定

ネットワーク設定により、Agera L2はデータを共有ネットワーク上の場所に自動的にエクスポートしたり、コンピューター上のHunterLab EasyMatch Essentials L2 for PCに接続したり、その他のネットワーク機能をサポートしたりすることができます。ネットワーク設定では、IPアドレスを自動的に設定するDHCPと、手動でIPアドレスを入力する静的IPのどちらかを選択できます。

方法1：イーサネットケーブルを使用して AGERA L2 をネットワークハブに接続します。

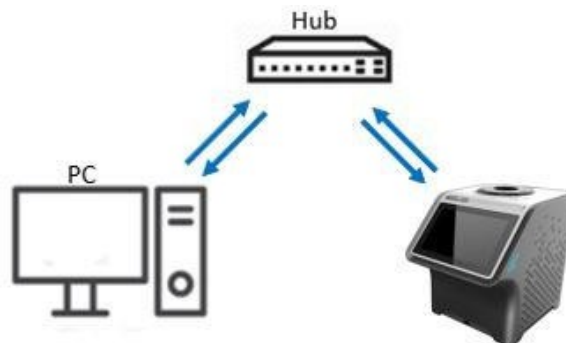


図 43. ネットワーク接続方法1

イーサネットケーブルを使用して、AGERA L2とPCを同じネットワークハブに接続します。あるいは、DHCPサーバー機能を備えたスタンドアロンのルーターに、イーサネットケーブルを使用してAGERA L2とPCを接続します。

1. イーサネットケーブルの一端をAGERAの背面に、もう一端をネットワークハブに接続します。PCもこのネットワークハブに接続します。

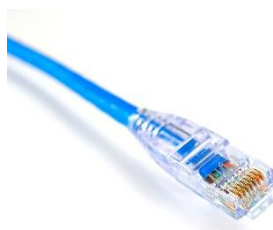


図 44. イーサネットケーブル

2. AGERA L2で、[SYSTEM MENU] > [INSTRUMENT SETTINGS] > [NETWORK SETTINGS] を選択します。「Edit」を選択します。イーサネット設定を構成します。
3. 「USE DHCP FOR ETHERNET」にチェックを入れ、「APPLY NETWORK SETTINGS」をクリックし、ネットワーク設定ウィンドウを閉じます。

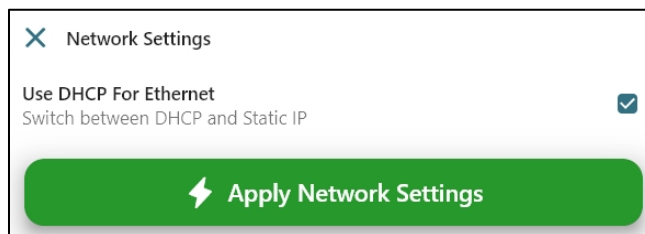


図45. DHCPネットワーク設定

方法2：AGERA L2 とコンピュータを直接接続する。

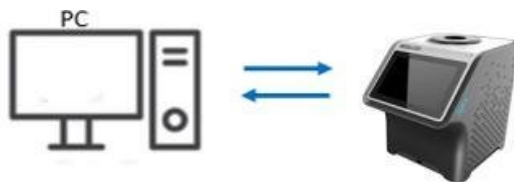


図46. ネットワーク接続方法2

1. イーサネットケーブルの一端を AGERA L2 の背面に、もう一端を PC に接続します。PC に利用可能なイーサネットポートがない場合は、USB-イーサネットアダプタを使用できます。



図47. USB-イーサネットアダプタ

2. PCのIP設定を確認します：
 - a. Windows コンピュータの場合、スタートメニューをクリックしてコマンドプロンプトを開き、検索バーに「cmd」と入力して、「コマンドプロンプト」を選択します。
 - b. 「ipconfig」と入力し、Enterキーを押します。
 - c. 適切なイーサネット接続（この例では「イーサネットアダプタ 2」）を見つけ、「IPv4 自動構成アドレス」および「サブネットマスク」の値をメモします。

```

Command Prompt

C:\Users\ping.wang.HUNTERLAB>
C:\Users\ping.wang.HUNTERLAB>ipconfig

Windows IP Configuration

Ethernet adapter Ethernet 2:

    Connection-specific DNS Suffix  . : 
    Link-local IPv6 Address . . . . . : fe80::1420:851b:44d0:7190%29
    Autoconfiguration IPv4 Address. . : 169.254.113.144
    Subnet Mask . . . . . : 255.255.0.0
    Default Gateway . . . . . : 

Wireless LAN adapter Local Area Connection* 3:

    Media State . . . . . : Media disconnected
    Connection-specific DNS Suffix  . : 

Wireless LAN adapter Local Area Connection* 2:

    Media State . . . . . : Media disconnected
    Connection-specific DNS Suffix  . : 

Ethernet adapter Bluetooth Network Connection:

    Media State . . . . . : Media disconnected
    Connection-specific DNS Suffix  . : 

Wireless LAN adapter Wi-Fi:

    Media State . . . . . : Media disconnected
    Connection-specific DNS Suffix  . : 

Ethernet adapter Ethernet:

```

図48. コマンドプロンプト- イーサネットアダプタ

3. AGERA L2で、[SYSTEM MENU] > [INSTRUMENT SETTINGS] > [NETWORK SETTINGS] の順に選択します。「Edit」を選択します。**イーサネット設定を構成します。**
4. 「USE DHCP FOR ETHERNET」のチェックを外します。
5. **IPアドレス、サブネットマスク、ゲートウェイ、優先DNSを手動で入力します。**
 - a. **IPアドレス**は、イーサネットアダプタのIPv4アドレスと同じです。最後の桁を、イーサネットアダプタのIPv4アドレスとは異なる1～10の任意の数字に変更します（例：169.254.113.145）。
 - b. サブネットマスクは、イーサネットアダプタのものと等しくします。例：255.255.0.0。
 - c. ゲートウェイは空のままにします。
 - d. 優先DNS は空のままにします。

図 49. 静的ネットワーク設定

6. [ネットワーク設定を適用]を選択し、[ネットワーク設定] ウィンドウを閉じます。

AutoSearch Standard

AutoSearch Standard 機能は、測定が行われるたびに、許容誤差を満たすワークスペースを自動的に識別します。

「AutoSearch Standard」モードを有効にして使用するには：

- 「AutoSearch Standard」を有効にするには：
 - 「システムメニュー」→「機器設定」→「オートサーチ・スタンダード」に移動します。
 - 「AutoSearch Standard Enabled」にチェックを入れ、標準化モードと測定オプションを設定します。
 - 注：有効にすると、ここで設定された測定オプション（構成およびプロンプト設定）が、ワークスペース設定のものを上書きします。

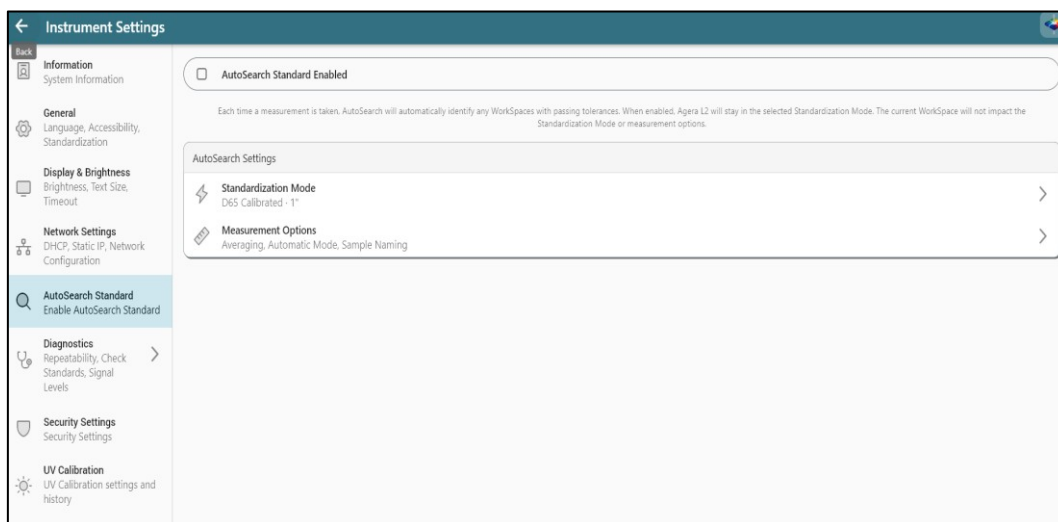


図50. オートサーチ設定

- オートサーチに含めるワークスペースの選択:

- 含めたい各ワークスペースについて、「ワークスペースの編集」→「測定オプション」を開きます。
- 「オートサーチ標準に含める」にチェックを入れて、オートサーチ処理に追加します。

注：AutoSearch には、Physical、Numeric、または Hitch 規格を持つワークスペースのみが含まれます。また、ワークスペースには少なくとも 1 つの公差が適用されている必要があります。ワークスペースを AutoSearch から除外したい場合は、そのワークスペースのワークスペース設定ページでいつでも除外できます。

- 測定を実行する：

- 緑色のアクションボタンが「**AUTOSEARCH**」に変わります。
- サンプルを配置し、「**MEASURE**」アクションボタンをタップします。
- Essentials L2は設定済みのワークスペースを検索し、現在の測定と同じ標準化モードで、かつ許容誤差を満たすものを一覧表示します。
- 複数のワークスペースが一覧表示された場合は、保存するワークスペースを1つ選択してください。
- このサンプルに適合するワークスペースがない場合でも、後で確認できるよう、サンプルを「**NO MATCH**」ワークスペースに保存することができます。

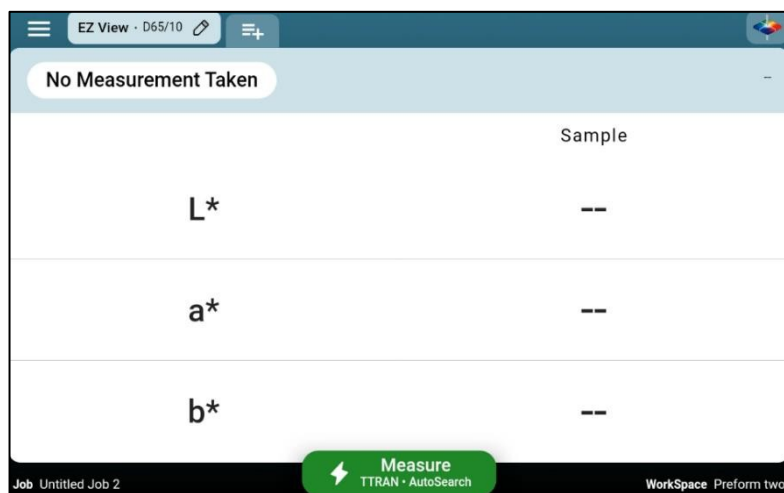


図51. 測定

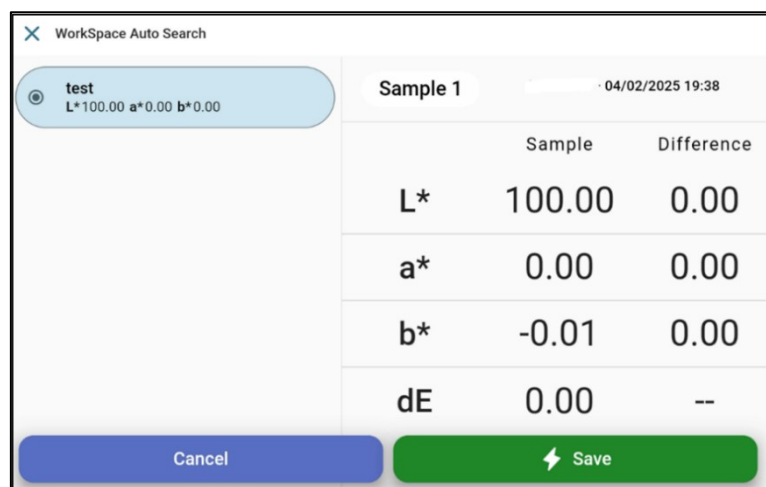


図52. ワークスペースの自動検索

- 結果の保存と表示：
 - [保存] をクリックすると、選択したワークスペースが読み込まれ、測定結果が表示されます。

診断

「診断」メニューには、機器の全体的な状態、「**前回の診断テスト結果**」、および「**機器の詳細**」が表示されます。このメニューを終了するには、画面左上の矢印を使用してください。

診断がスキップされた場合、または失敗した場合は、画面左上に簡単なインジケータが表示されます。各テストのステータスは「診断」ページに表示されます。

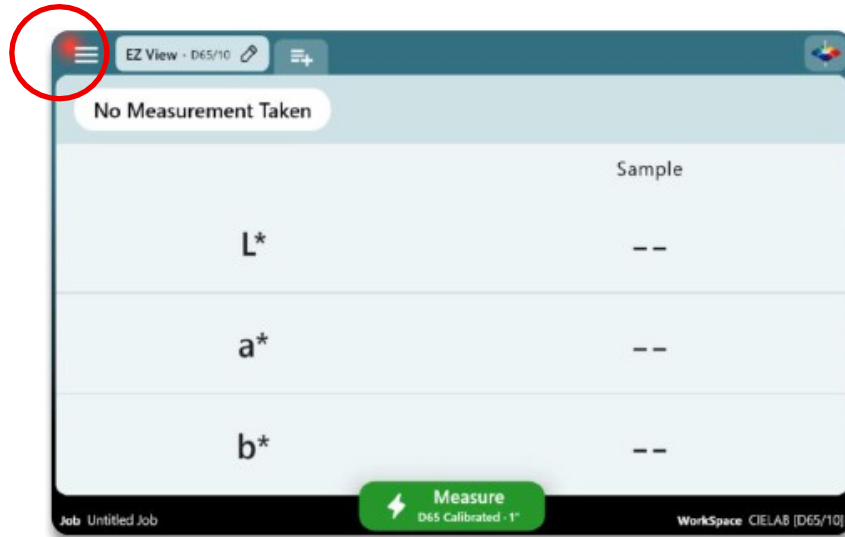


図 53. 診断の失敗

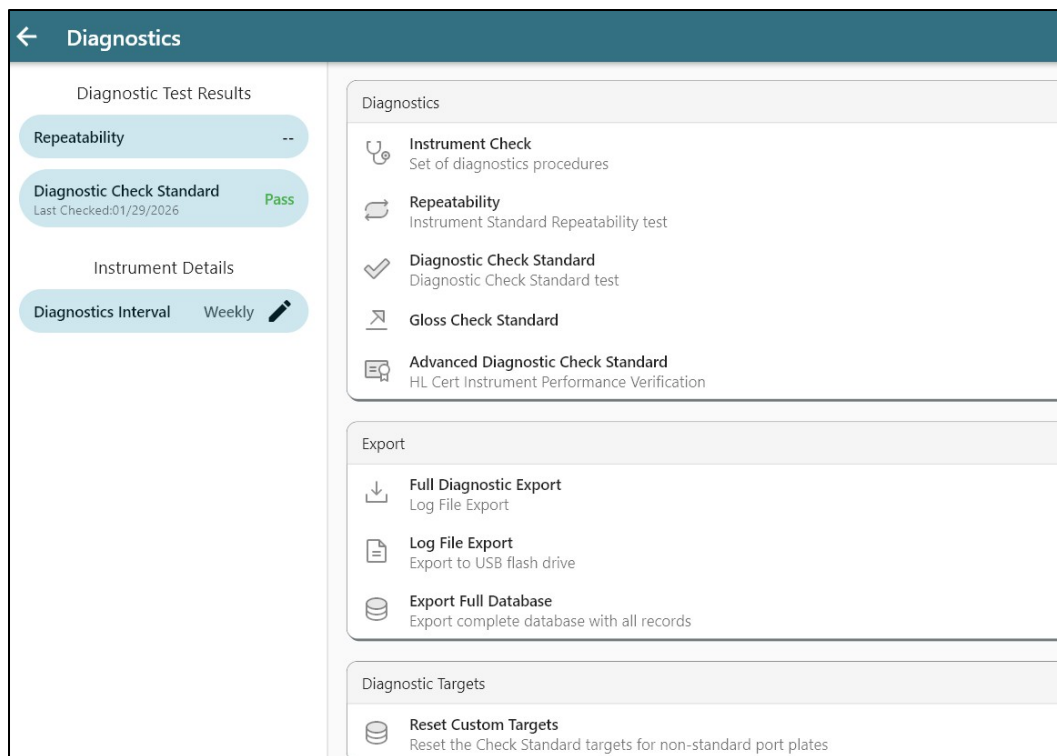


図 54. 機器の状態

機器チェック

「機器チェック」を選択すると、信号レベル、再現性、チェックタイルの一連のテストが実行されます。指示に従って続行してください。機器チェックは、「システムメニュー」>「診断ステータス」をタップして開始できます。

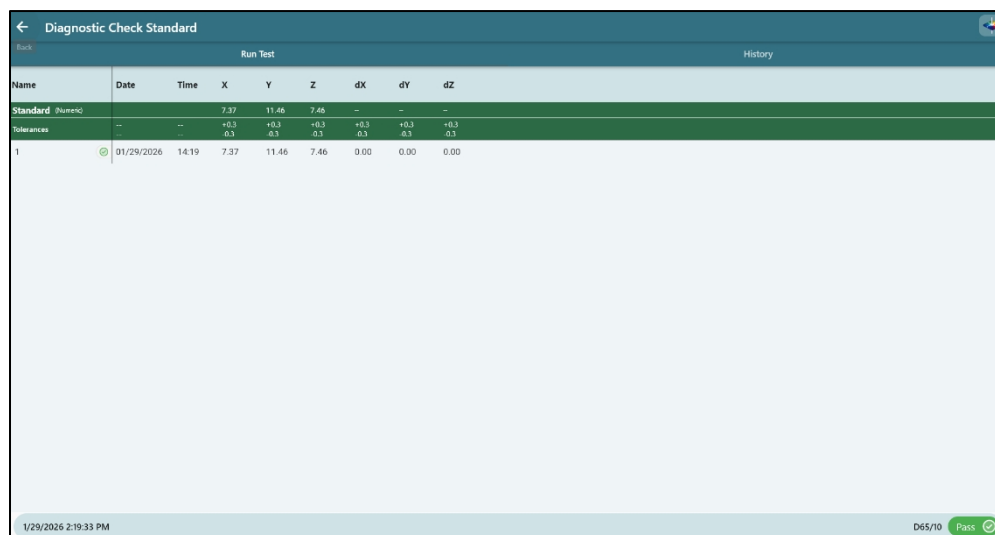
再現性

このテストを選択すると、認定機器標準（白）の1つの標準測定値と比較して、30回の測定値のグループが実行されます。1インチのポートプレートが使用されていることを確認してください。緑色のアクションボタンをタップして「STANDARDIZE（標準化）」を行い、テストを実行します。

図 55. 再現性

診断チェック標準

このテストを使用して、診断チェック標準（緑）を測定し、測定値が工場出荷時の許容値と一致していることを確認します。まず、1インチのポートプレートを取り付けます。緑色のアクションボタンをタップして、機器を「標準化」します。次に、診断チェック標準をポートに配置し、「START」を押して測定します。



Diagnostic Check Standard								
Run Test								
Name	Date	Time	X	Y	Z	dX	dY	dZ
Standard (Nunc)	--	--	7.37	11.46	7.46	--	--	--
Tolerances	--	--	+0.3	+0.3	+0.3	+0.3	+0.3	+0.3
1	01/29/2026	14:19	7.37	11.46	7.46	0.00	0.00	0.00

1/29/2026 2:19:33 PM D65/10 Pass

図56. 診断用チェック標準の測定値

光沢チェック

測定器を標準化します。次に、光沢標準の目標値と許容誤差を入力します。合格または不合格の結果がページの右下に表示されます。



The screenshot shows a dialog box titled "Edit Target Values". Inside, there is a section labeled "Target" with a "Gloss" label. To the right of "Gloss" is a text input field containing "3.000". To the right of this field is a minus sign, followed by another text input field containing "3.000", and then a plus sign followed by a third text input field containing "3.000". At the bottom of the dialog is a large blue button labeled "Save".

図57. 光沢値の入力

高度なチェック標準

これにより、測定器の性能が検証され、HunterLab証明書が生成されます。

診断結果、ログファイル、およびデータベース全体のエクスポート

測定器にUSBメモリを接続し、こちらのエクスポートオプションを押してデータをエクスポートします。

セキュリティ設定

この機能により、パスワード保護の有効化／無効化が可能です。オプションには、ロールベースの権限、パスワードの長さおよび有効期限、非アクティブ時の自動ログアウト、およびロックアウトまでのログイン失敗回数の制限が含まれます。

- 画面の指示に従ってパスコードを設定してください。
- 必要なセキュリティ機能（パスコード、標準化、および/またはデータビューエディタ）を選択してください。
- その後、セキュリティ保護された機能を実行するにはパスワードが必要になります。

UV キャリブレーション

すべての Agera Classic モードの UV キャリブレーションの状態は、「**INSTRUMENT SETTINGS**

> **UV CALIBRATION** ページで確認できます。また、このページからどのモードでも再キャリブレーションを行うことができます。

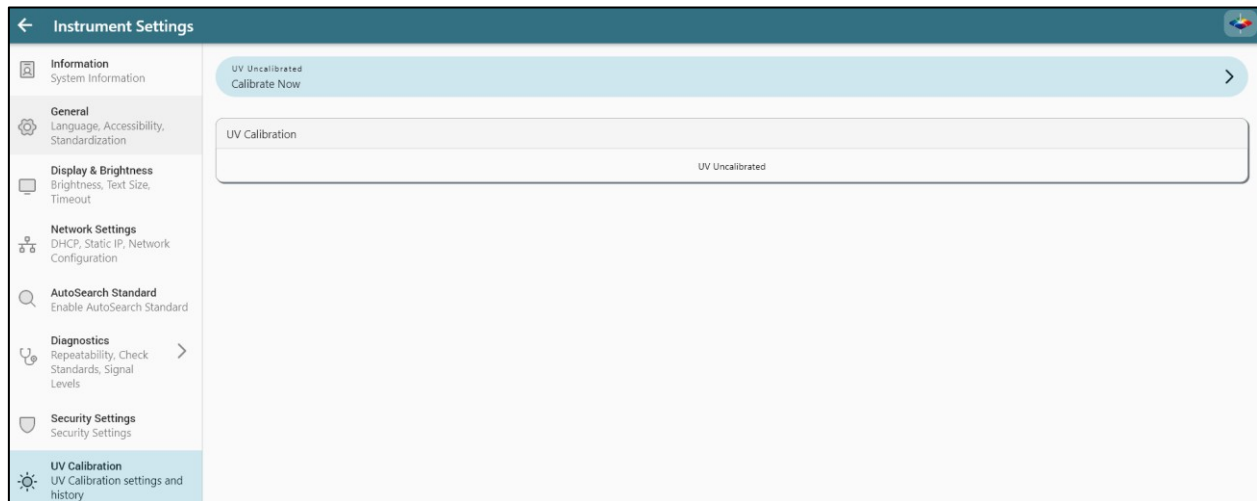


図58. UV キャリブレーションステータス

UV キャリブレーションの設定と履歴を表示します。「**CALIBRATE NOW**」を押して、キャリブレーションを行うポートプレートと視野領域を選択します。このUVキャリブレーション手順では、WI Ganz [D65/10]やWI E313 [D65/10]などの白色度指数値が割り当てられた蛍光標準板を使用し、時間の経過とともにD65日光に一致するようにUV成分を最適化します。選択後、緑色のバーを押してUVキャリブレーションを実行します。

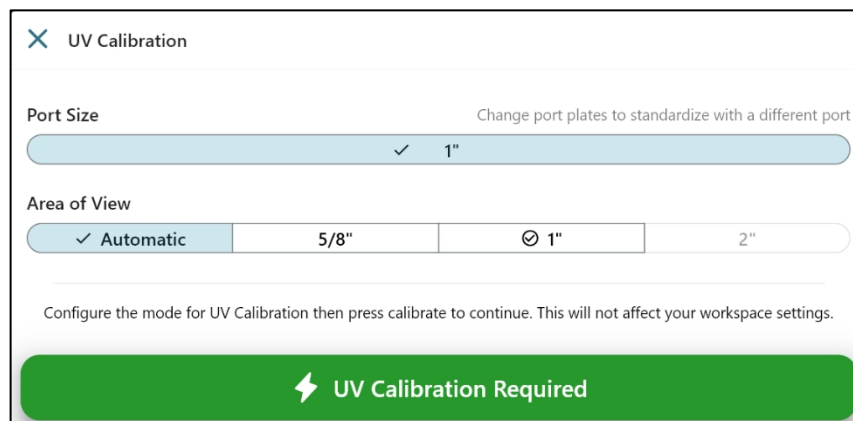


図59. UVキャリブレーション

Agera L2 での Essentials L2 の更新方法

HunterLabのサポートウェブサイトにて、Agera L2 Essentials L2ソフトウェアの最新版および主な変更点をまとめたドキュメントをご確認ください。

手順：

1. **HUNTERLAB形式のファイル**（例：2024.4.2.hunterlab。2024.4.2はリリース番号）をUSBメモリにダウンロードします。

注：必要に応じてファイル名を変更できます。AGERA L2 Essentials L2は、ファイル名ではなくファイルの種類に基づいて自動的にファイルを認識します。

Name	Date modified	Type	Size
 2.24.5.hunterlab	1/17/2025 9:10 AM	HUNTERLAB File	41,760 KB

図60. Essential L2 アップデートファイル

2. USBメモリをAgera L2に挿入します。
 - Essentials L2 は、ドライブ上のファイルを自動的に検出します。
 - ファイルが現在インストールされているバージョンよりも新しい場合、Essentials L2 は更新のメッセージを表示します。
3. 画面上の指示に従って、新しい Essentials L2 ソフトウェアのインストールを完了してください。

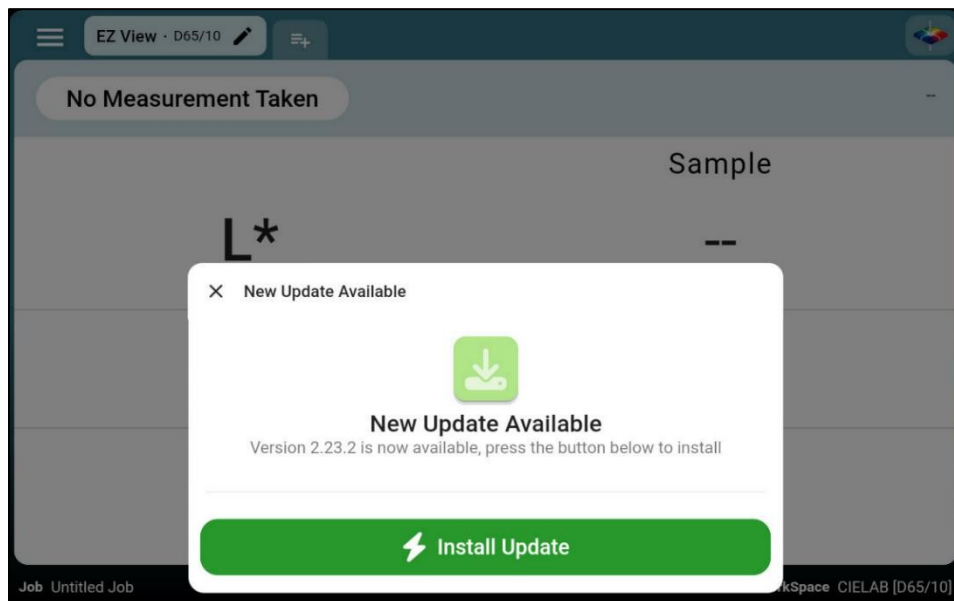


図61. アップデートのインストール

仕様

本章では、本装置の仕様と特性について説明します。最高の性能を発揮させるためには、十分な作業スペースがあり、照明が中程度または控えめで、通風の無い場所に本装置を設置してください。動作条件（温度および湿度の範囲）については、以下の「動作条件」のセクションに記載されています。

注：Agera L2 を、極端な温度や湿度になる可能性のある場所に放置しないでください。

表 5：仕様

動作条件

保管温度（3週間）	-20°C ～ 65°C (-5°F ～ 150°F)
動作温度	10°C ～ 40°C (50°F ～ 104°F)
結露しない湿度	10% ～ 90%

身体的特徴

重量	7.7 kg (17.0 ポンド)
外形寸法 (高さ × 幅 × 奥行)	28 cm × 22 cm × 31 cm (11.0インチ × 8.75インチ × 12.25インチ)
通信I/O：USB イーサネット RJ45 外部入力：	USBメモリ、プリンター、キーボード、マウス、およびその他の周辺機器への接続。前面パネル (1)、背面パネル (2) スタンドアロンまたはネットワークプリンターへの直接印刷、LIMSおよびSPCシステムへのデータストリーミング。 インターネットベースのサポートツールを通じて有効化。 リモートフットスイッチまたは同様の閉接点スイッチングデバイス。
システム電源	100～240 VAC、47～63 Hz から 24 VDC/3.75A 90W のユニバーサル電源へ
ディスプレイ	7インチ静電容量式タッチスクリーン、高解像度 1280x800

照明および視認条件

光源	フルスペクトルバランスLEDシステムアレイ
デュアルビーム分光光度計	256素子ダイオードアレイおよび高解像度凹面ホログラフィックグレーティング 密閉光学系、
測定条件	0°/45°円周方向 ASTM E1164
測定条件	ポート・フォワード、ポート・アップ

測定器性能

波長範囲	測定範囲：400 nm～700 nm、報告間隔（nm）：10 nm
照射波長範囲	360 nm – 700 nm
波長分解能	<3 nm
有効帯域幅	10 nm（等価三角帯域）
測光範囲	Agera Classic -- 0～150%；D65光源 – 0～200%
読み取り時間	3秒未満
LED寿命	標準5年
機器間の一致度	色： ΔE 2000 < 0.10 CIE L*a*b* (平均) on CCSII (CERAM) タイルセット 光沢：0～100、 ≤ 0.5 GU
色差の再現性	色：認定機器標準における ΔE < 0.03 CIE L*a*b* (最大) 光沢：0～100 GU： ≤ 0.1 GU
UV 制御	UV を含むおよび UV を除く測定が可能で、比較データの表示とレポート作成が自動化されています。工場出荷時に校正済みですが、ユーザーは特定の蛍光標準に合わせて校正することも可能です。

測定

画像キャプチャ	高解像度、D65照明、0°/45°画像表示、画像キャプチャ、画像呼び出し
ポートプレート開口部	特大 – 53.97 mm (2.125 インチ)大 – 28.57 mm (1.125 インチ) 中 – 17.47 mm (0.688 インチ)
測定面積	XLAV - 50.8 mm (2.0 インチ) LAV - 25.4 mm (1.0 インチ) MAV - 15.89 mm (0.625 インチ) 光沢 – 8mm (5/16インチ)
データ表示	EZ View、カラーデータテーブル、カラープロット、スペクトルデータ、スペクトルプロット、色度プロット

その他の機能	合格/不合格のカラー表示、日時スタンプ、自動命名、画像キャプチャ、複数測定値の平均化、時間ベースの自動測定、データのバックアップと復元
USBフラッシュドライブの機能	データエクスポート、ジョブデータ、サンプル画像、スクリーンキャプチャ、データベース
光源	A、C、D50、D55、D65、D75、F02、F07、F11、
観測者	2°および10°
色度系	CIE L*a*b*、Hunter Lab、CIE L*C*h、CIE Yxy、CIE XYZおよび差
色差指標	ΔE^* 、 ΔC^* 、 ΔE 、 ΔE CMC、 ΔE 2000、dH*、グレースケールカラー、グレーステイン、最大吸光度での強度、強度加重、メタメリズム、シェードナンバー 555
指標および測定基準	光沢（ASTM D423、ASTM D2457、ISO 2813、ISO 7668、JIS 28741）、E313 黄色度、E313 白度、E313 色合い、ガンツ色合い、ガンツ白度、YI D1925 黄色度、Y 明度、Z%、457nm 輝度、ベーキングコントラスト単位、ASTM E1349、ISO 18314-3 黒度 (My、Mc、dM)、グレー度 (Gy、Gc、dG)
光沢	60°光沢度（ASTM D523およびISO 2813に準拠）
データ保存	32 GB（画像付きレコード400万件以上）
対応言語	多言語対応

標準付属品

標準付属品	認定機器標準（白色、トレーサビリティ証明書付き）、ブラックガラス標準、診断チェック標準（緑色）、標準ボックス、XL、L、M のポートプレート、電源、クイックスタートガイド、Agera L2 ユーザーマニュアル（Essentials L2 用、www.hunterlab.com 版）
-------	---

規格への適合

標準	色： CIE 15:2018、ASTM E1164、DIN 5033、Teil 7、JIS Z 8722 状態 C 光沢： ASTM D523、ASTM D2457、ISO 2813、ISO 7668、MIS 2874
----	--

規制に関する通知

Declaration of Conformance	
Applicable Directives:	2014/30/EU Electromagnetic Compatibility 2014/53/EU Radio Equipment Directive 2011/65/EU RoHS 2014/35/EU Low Voltage Directive
Standard to which Conformity is Declared:	IEC 61326-1: 2020 EMC IEC 61010-1: 2010 Product Safety
Manufacturer:	Hunter Associates Laboratory, Inc. 11491 Sunset Hills Rd, Reston, VA, USA
European Representative: Representative's Address:	Christian Jansen HunterLab Europe GmbH D-82418 Murnau, Germany
Type of Equipment:	Reflectance Spectrophotometer
Model No.:	Agera® L2
<i>I, the undersigned, hereby declare that the equipment specified above conforms to the Directive(s) and Standard(s) above</i>	
Place: <u>Reston, VA, USA</u>	Signature <u></u>
Date: <u>January 23, 2026</u>	Full Name <u>Kyle Fruth</u>
	Position <u>Electrical Engineer</u>
A61-1021-983 REV A	

Agera L2 のメンテナンスと安全

Agera L2 のメンテナンス

Agera L2は、メンテナンスを最小限に抑えるよう設計されています。本セクションでは、機器が正しく動作するようにするために、時折メンテナンスが必要なセンサーのいくつかの部品について説明します。

- Agera L2 は防水仕様ではありませんが、ケースの外側は湿らせた布で拭くことができます。
- 光学窓を清掃する際は、光学窓のガラスやコーティングに傷をつけないよう注意してください。柔らかいマイクロファイバークロスまたはレンズ用ワイブを使用してください。

認定機器、ブラックガラス、および診断チェック用標準品の清掃

- 認定機器標準（白）、診断チェック標準（緑）、およびブラックガラス標準は、柔らかいナイロン毛のブラシ、温水、およびSPARKLEEN、Alconox、イソプロピルアルコールなどの実験室用洗剤を使用して清掃できます。洗浄後は、光学増白剤を含まない清潔な糸くずの出ないペーパータオルでタイルを拭き取り、乾かすか、ぬるま湯ですすいで数分間自然乾燥させてください。

注：SPARKLEEN は、ペンシルベニア州ピッツバーグ 15219 の Fisher Scientific Co. によって製造されており、カタログ番号 4-320-4 を使用して注文できます。1 ガロンの水に SPARKLEEN を大さじ 1 杯加えてください。

Alconoxは、Alconox, Inc（ニューヨーク州ホワイトブレーンズ 10603）によって製造されており、カタログ番号1104-1を使用して注文できます。水1ガロンに対し、Alconoxを大さじ1杯加えます。

使用しない際は、**機器用標準板**を標準ケースに保管し、傷やホコリの付着を防いでください。機器の標準化を行う前に、標準板に傷、ホコリ、指紋、その他の汚染物質がないか確認してください。著しい傷や汚れがあると外観が損なわれ、標準化誤差の原因となる可能性があります。標準板に傷がある場合や、洗浄では落ちない汚れがある場合は、HunterLab（Support@hunterlab.com）またはお近くのHunterLab代理店に連絡し、交換品をご注文ください。

サポートが必要な場合

アプリケーション、トラブルシューティング、サービス、保証、アクセサリーの価格などに関する技術的または販売上のサポートが必要な場合は、最寄りのオフィスまでご連絡ください：

南北アメリカ：Support@hunterlab.com アジア：

AsiaSupport@Hunterlab.com

ヨーロッパ：EuropeSupport@HunterLab.comその他の地域：

Support@HunterLab.com

さらに、当社のグローバルサポートウェブサイトでは、アプリケーション、機器の操作、トラブルシューティングなど、さまざまな色測定および外観に関するトピックの情報ライブラリを備え、24時間365日のサポートを提供しています。

HunterLabグローバルサポートウェブサイトは support.hunterlab.com です。

個別サポートをご希望の場合は、support.hunterlab.com にアクセスし、メニュー内の「[チケットを作成](#)」ボタンを選択してください。お客様の情報が入力・登録されます。当社のカスタマーエクスペリエンスチームが、お問い合わせに対応いたします。

図表一覧

図 1. Agera L2 背面のポート	13
図2. 起動画面	16
図3. ブラックグラス標準への統一	16
図4. 認定計器標準（白）を読み取る	17
図5. 診断チェック標準を測定する	17
図6. サンプルを標準として設定する	18
図7. 簡易標準液の設定	19
図8. ジョブの名前変更、削除、エクスポート、印刷	20
図9. エクスポート形式の選択	20
図10. ジョブの印刷	21
図11. Agera L2 Essentials L2のユーザーインターフェース画面	23
図12. ワークスペースの編集または新規作成	24
図13. システムメニュー	25
図14. HunterLabアイコン	27
図15. ジョブおよびワークスペースのグローバル検索	27
図16. 検索言語	28
図17. 3つのドットによる検索ラベルの印刷	29
図18. 測定例の詳細	30
図19. 標準化モード	31
図20. 照明プロファイルの選択	31
図21. クラシックモード	32
図22. UVキャリブレーションターゲットとインデックス	32
図23. ポートプレートの選択	33
図24. ポート設定	33
図25. ポートプレートの不一致が検出されました	34
図26. 規格と許容差	35
図27. 測色法またはスペクトルヒッチの選択	36
図28. スペクトルヒッチ	36
図29. エクスポートオプション	37
図30. 自動エクスポート設定	38
図31. ラベル設定	39
図32. ビューの管理	41
図33. 新しいオプションを備えたEZ Viewの表示	42
図34. カラーデータ表示	42
図35. スペクトルデータ表	43
図36. スペクトルプロット表示	44
図37. カラープロット表示	45
図38. 機器情報	47
図39. 機器設定：一般	48

図40. 日付と時刻	48
図41. 言語、数値および日付の形式	48

図42. サンプル検出と光沢の有効化	49
図43. ネットワーク接続方法 1.....	50
図44. イーサネットケーブル.....	50
図45. DHCPネットワーク設定	50
図46. ネットワーク接続方法 2.....	51
図47. USB-イーサネットアダプタ.....	51
図48. コマンドプロンプト-イーサネットアダプタ	51
図49. 静的ネットワーク設定	52
図50. AutoSearch設定	53
図51. 測定	54
図52. ワークスペースの自動検索	54
図53. 診断失敗	55
図54. 機器の状態	55
図55. 再現性	56
図56. 診断チェックの標準測定値	56
図57. 光沢値の入力	57
図58. UVキャリブレーションの状態.....	58
図59. UVキャリブレーション	58
図60. Essential L2更新ファイル.....	59
図61. アップデートのインストール.....	59

表

表1. サイト要件.....10

表2. ワークスペース設定.....15

表3. ポートの選択.....35

表4. 利用可能なワークスペースの選択.....36

表5. 仕様.....63

目次

アクションボタン、25	ワークスペースのエクスポート、28
アクティブビュー、29	診断の失敗、61
ビューの追加、44ビューの追加、29自動エクスポート、41	
AutoSearch Standard、51	
平均化、40	
背景、54	
バーコード、32	
クリーニング基準、71Agera L2 のクリーニング、13カラーデータテーブル、45、47	
色差、37	
色差、40	
カラープロット、45カラープロットスケール、48	
カラースケール、37、38、45	
コンピュータ接続、57	
著作権、3	
ワークスペースの削除、26	
診断、62	
診断チェックの基準、62診断チェックの基準値、19	
異なるポートプレートを使用した診断チェック基準、20	
診断結果のエクスポート、63相違点、21、45	
表示の明るさ、55	
表示オプション、45サンプル名の編集、21ジョブの編集、21	
ワークスペースの編集、33ワークスペースの編集、21、33	
Essentials の更新、65	
イーサネットアダプタ、58	
イーサネットポート、14	
ジョブのエクスポート、28	

初期設定、17グローバル
検索、30
グロスチェック、63
緑、19
HDMI、14
ヒッチの標準手順、39色
相と彩度、48HunterLab アイ
コン、29
光源/観測者、38
指標、37、40、45
情報、51
機器の状態、61機器のシリアル
番号、51機器の設定、28
ジョブ、25
ジョブのエクスポート、22
ジョブの印刷、23
キーボードとマウス、13
法的免責事項、3
免責事項、4
稲妻アイコン、14サンプ
ルの測定、20測定の詳細
、20
測定オプション、40
測定画面、17
ネットワークアドレス、51
ネットワーク設定、55
ネットワーク設定、56
動作条件、67
パスワード保護、63
定期診断、29
電源入力、14
電源投入、17
電源、13
電源スイッチ、14
ラベルの印刷、32
製品 ID、40
背面機器コネクタ、14ビューの削
除、29ビューの並べ替え、29

繰り返し、62	標準付属品、11、69
安全、3、12	標準読み取り値、20
サンプルラベル、33、41	標準タイプ、38
サンプルの名前、40	標準化、18
ビューへの変更の保存、29スクリーンキ	ステータスバー、25
ャプチャ、31	システムメニュー、27
サイトの要件、11	テキストサイズ、54
ソフトウェアの更新、65	タイムアウト、55
ソフトウェアのバージョン、51スペ	タッチスクリーンディスプレイ
クトルデータテーブル、47スペクト	、13トレーニング、12
ルヒッチ、39	USB、14
スペクトルプロット、48	USB コネクタ、14
サンプル制限、48	UV キャリブレーション、51、63
スペクトルプロットの表示オプション、	ワークスペース、26
48 標準	編集、26
標準ヒッチ、38	新規、26
数値、38	ワークスペースの編集、33
物理、38	